

設 計 書

令和7年度森林整備林道事業林道寄栗線神前橋橋梁補修工事

鹿沼市 上久我

工 期 令和8年3月25日まで

設 計 概 要

断面修復工 $A = 14.5 \text{ m}^2$

ひび割れ補修工 1式

表面保護工 $A = 104.0 \text{ m}^2$

水切り設置工 $L = 27.6 \text{ m}$

検算者

伸縮継手補修工 $L = 17.1 \text{ m}$

足場工 1式

設計者

鹿 沼 市 役 所

(甲-1)

設 計 書

事業費

(内消費税相当額)

内 訳

工 事 費

本工事費

用 地 費

補 償 費

委 託 費

事 務 費

変更前回実施			変更今回		
設 計 額	工事価格		設 計 額	工事価格	
	消費税			消費税	
	請負工事費			請負工事費	
請 負 額	請負価格		請 負 額	請負価格	
	消費税			消費税	
	請負代金			請負代金	
請負率			増減額		
変更理由					

鹿 沼 市 役 所

(甲-2)

土木工事仕様書

令和6年6月1日適用

I 共通仕様

1. 工事仕様については下記の通りとする

(1) 河川工事、砂防工事、道路工事、公園工事及びこれらに類する工事は下記の共通仕様書に準拠し施工する。

① 栃木県県土整備部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/h30kyoutuusiyousyo.html>

(2) 下水道工事その他これらに類する工事は下記の共通仕様書に準拠し施工する。

① 日本下水道協会発行の下水道土木工事共通仕様書(案)

<https://www.jswa.jp/>

② 栃木県県土整備部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/h30kyoutuusiyousyo.html>

(3) 土地改良工事、農道整備工事、農業集落排水工事、農村公園工事及びこれらに類する工事は下記の共通仕様書に準拠し施工する。

① 栃木県農政部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/g02/kyotuusiyousyo2019.html>

② 栃木県県土整備部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/h30kyoutuusiyousyo.html>

(4) 治山工事、林道工事、自然公園等施設工事その他これらに類する工事または森林整備業務にかかる工事は下記の共通仕様書に準拠し施工する。

① 栃木県環境森林部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/d08/documents/2020042.html>

② 栃木県県土整備部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/h30kyoutuusiyousyo.html>

(5) 水道工事(導水管、送水管、及び配水管)その他これらに類する工事は下記の共通仕様書に準拠し施工する。

① 栃木県県土整備部発行の土木工事共通仕様書

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/h02/h30kyoutuusiyousyo.html>

② 日本水道協会の発行する水道工事標準仕様書

<http://www.jwwa.or.jp/>

なお、最新情報及び改訂版等の管理は表記 URL を参照し、内容等に疑義が生じた場合は、監督職員と協議すること。

2. 資材の購入及び下請負業者の選定について

- (1) 本工事において、市内で産出、生産又は製造される資材等の規格品質等が設計図書の仕様に適合すると認められる場合は優先して使用するよう努めること。また、資材購入についても市内業者より購入するよう努めること。
- (2) 下請負業者の選定に当っては、市内業者を優先的に使用するよう努めること。
- (3) 一次下請業者に対する工事代金の支払いは、速やかに現金又は90日以内の手形で行うものとする。

3. 成果品の電子納品について

請負者は、原則として成果品の電子納品を実施しなければならない。電子納品に当っては、『鹿沼市電子納品運用ガイドライン』を遵守すること。

4. 工事看板の設置基準について

本工事看板の設置は鹿沼市財務部契約検査課 HP 更新履歴(2007年12月18日付)を参照すること。

5. 建設発生土の処分について

請負者は、建設発生土については前記1の工事仕様に定めることのほか、次のことについて施工しなければならない。

- (1) 残土運搬・残土処理する場合は関連する諸法令に充分注意し、関係機関と協議するとともに、その旨を監督職員に書面にて報告しなければならない。
- (2) 土質試験項目等については、『鹿沼市土砂等の埋立て等による土壤の汚染及び災害の発生の防止に関する条例』及び『鹿沼市土砂等の埋立て等による土壤の汚染及び災害の発生の防止に関する施行規則』による。

II 特記仕様

1. 工事資料の提出について

請負者は、工事資料の作成にあたって別紙の鹿沼市工事資料一覧表を参照すること。

2. 法定外の労災保険の付保

本工事において、受注者は法定外の労災保険に付さなければならない。

※法定外の労災保険とは、業務や通勤に起因した労働者の負傷、疾病、障害、死亡などに対して、労働者災害補償保険法(労災保険法)による労災補償給付とは別に、企業が独自の立場から補償給付の上積みを行うための保険

3. 週休2日制工事

本工事は、「鹿沼市週休2日制工事試行要領」の対象とならない。

4. 工期について

本工事は令和8年度への繰越を予定しており、議会の承認が得られ次第、現場担当者と協議の上、工期を延長する。

鹿沼市工事資料一覧表

※1 1. 提出書類

No.	工事資料名	500万円未満※4	検査資料	500万円以上	検査資料	備考
1	施工体系図	△	△	△	△	建24の7、建則14の6、仕1-1-1-10
2	施工体制台帳	△	△	△	△	建24の7、建則14の6、仕1-1-1-10
3	再生資源利用・利用促進(実施)書(計画書は施工計画書)、データ※6	○※3	●	○	●	仕1-1-1-18、栃木県建設副産物管理基準
4	建設副産物処理承認申請書・同処理調査(産廃処理業者及び収集運搬業者の許可証と契約書写し、処理場等書類と写真添付)	-	-	○	●	仕1-1-1-18、栃木県建設副産物管理基準
5	設計図書照査表	△	△	○※2	●	契19、仕1-1-1-3
6	工事履行報告書(工事実施工工程表含む):毎月	-	-	○	●	契13、仕1-1-1-24
7	工事打合せ簿総括表、工事打合せ簿(指示・協議・通知・承諾・提出・報告・その他)	○※7	●	○※7	●	契11Ⅱ④
8	確認・立会願・段階確認書(状況写真添付)	-	-	○	●	契11Ⅱ③、仕3-1-1-6
9	工事写真(電子データ)※8	○	●	○	●	契約16、鹿沼市電子納品ガイドライン
10	使用材料報告書(承認願)(再生クラッシャー(RC材)骨材品質確認状況報告書含む)	○	●	○	●	契15、再生材の利用基準
11	施工計画書(再生資源利用・利用促進計画書含む)	○※3	●	○	●	仕1-1-1-4、土木工事施工計画書作成の手引き
12	施工管理報告書(品質管理、出来形管理)	○	●	○	●	仕1-1-1-23(出来形・品質)
13	台帳関係(舗装・橋梁・照明・標識等)、工事完成図	該当がある場合			仕1-1-1-19、特記仕様書	
14	電子納品成果品(事前協議チェックシート、電子媒体納品書含む)	電子納品範囲については監督員との協議による			鹿沼市電子納品ガイドライン	
15	その他	監督員が必要と認める資料				
		○:作成資料 ●:検査で確認する資料 △:該当する場合に作成する資料(検査で確認)				

・様式については栃木県土木工事共通仕様書様式集を参照する。

※1 提出書類とは、施工に伴い作成する資料であって、完成時には現場とともに引き渡す書類である。

※2 様式総一3のうち、『栃木県建設工事(変更)請負契約書第19条第1項及び』の記載を削除する。

※3 500万未満の施工計画書に記載する事項

- 1 工事概要
- 2 現場組織表
- 3 緊急時の施工体制及び対応
- 4 再生資源利用・利用促進(計画)書
- 5 その他(請負者・発注者が工事施工上必要な事項)

※4 請負額100万円未満の工事資料については、工事写真と出来形のわかる資料とする。(施工計画書等は不要)

※6 建設副産物情報交換システム(COBRIS)を利用して登録した場合は、電子データの提出不要。
電子データで提出する場合、国土交通省のホームページより配布している様式(Excel版)で作成する。

※7 「通知」「提出」「報告」「届出」は、電子メールでの提出も可とする。この場合、メール文を印刷することで発議者の押印は省略する。(処理・回答の決裁は必要)提出の頻度は、月に2回程度を標準とし、監督職員との協議により決定する。「指示」「協議」に関する工事打合せ簿は、従来通りの扱いとする。

※8 インデックスプリントは監督員が指示した場合作成する。(省略する場合は、検査時に電子データ(写真等)を確認できる用意をする。)

※5 2. 請負者手持ち資料(検査を受けた年度の翌年から5年間保存)

No.	工事資料名	検査資料	備考
1	安全教育実施記録簿(写真添付)		仕1-1-1-26
2	産業廃棄物マニフェスト	△	廃掃12の3、仕1-1-1-18
3	建退共証紙購入報告書・建退共証紙受払簿		仕1-1-1-40
4	有資格者証写し一覧表(元請け、下請け)		安4、安則16
5	新規入場者教育実施記録簿(状況写真添付)		安則15
6	KY活動等実施記録簿(状況写真添付)		安則24の11
7	重機等の検査証写し及び点検記録簿(自主点検票写真)		安則169
8	重機作業における誘導員及び人の分離措置状況写真		安則158
9	作業員名簿(自社・下請)		労基107
10	社内パトロール実施記録簿(状況写真添付)		考查
11	保安施設記録資料		土指針2-2,3
12	山留め、仮締切等の設置後点検記録		安則375
13	足場、支保工等の設置後点検記録		安則567
14	安全協議会等の実施記録簿(状況写真添付)		考查
15	各種安全パトロール指摘事項は正報告書		考查
16	舗装取りコア等(500m未満で異常が認められない場合には不要、確認は納入伝票等で行うものとする。)	△	仕1-1-1-23(出来形・品質)
17	工事カルテ(請負額500万円以上)		仕1-1-1-5
18	交通整理員集計表及び伝票	△	仕1-1-1-23(出来形・品質)
19	創意工夫提案資料(状況写真添付)		考查
20	各機関等許可証等		仕1-1-1-35
21	地域コミュニケーション、ボランティア活動記録(状況写真添付)	△	考查

△該当がある場合は(検査で確認する資料)

※5 請負者手持ち資料とは、発注者に提出を要しないもの。ただし、施工段階あるいは完成検査時に、必要に応じて確認を求めることがあるもの。(原本・原稿等提示)

建	建設業法
建則	建設業法施工規則
廃掃	廃棄物処理法
安	労働安全衛生法
安則	労働安全衛生規則
労基	労動基準法
土指針	土木工事安全施工技術指針
契	鹿沼市建設工事請負契約書
仕	栃木県土木工事共通仕様書
考查	考查項目別運用表

参考資料（総括情報表）

頁 C-0001

事務所 設計書名 変更回数	61 県西環境森林事務所 実施設計書 当初 07-*****00002-40 0
適用単価区分 適用単価地区 適用単価世代	1 実施単価 21 鹿沼土木事務所管内 0-071010(0)
諸経費体系 ファイル名	Q 林道 令和7年度森林整備林道事業林道寄栗線神前橋橋梁補修工事.ES5
	当 世 代 前 世 代
前払率 工種 市街地補正区分 交通規制区分 緊急工事区分 現場環境改善費区分 週休二日補正区分 契約保証方法 消費税率	40 14 橋梁保全工事 13 山間僻地及び離島 03 一般交通影響なし 00 補正なし 99 計上しない 01 補正なし 01 金錢的保証 06 10%適用

参考資料（*本工事費* 内訳表）

頁 C-0002

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
本工事費					X1000
林道修繕		1式			YQ160
橋梁修繕工		1式			YQ2604
伸縮継手工		1式			YQ360404
埋設ジョイント補修		1式			YQ460404002
伸縮継手補修工 SMジョイント工法	17.1	m			G0100 科目 第0001号内訳表
殻運搬処理		1式			YQ460404005
殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし 23.2km以下 全ての費用	0.05	m 3			SZA961 0 施工 第0-0006号内訳表
処理費 (m 3) (Co, As) コンクリート (無筋)	0.05	m 3			SA0002 0 施工 第0-0007号内訳表

参考資料（*本工事費* 内訳表）

頁 C-0003

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
排水施設修繕工		1式			YQ360408
排水施設工		1式			YQ460408002
水切り設置工 FRP水切り材	1	橋			G0300 科目 第0002号内訳表
ひび割れ補修工		1式			YQ360412
充てん工法		1式			YQ460412001
ひび割れ補修工（充てん工法） 1構造物当たり補修延べ延長 20m未満	1	構造物			SA665 0 施工 第0-0008号内訳表
低圧注入工法		1式			YQ460412002
ひび割れ補修工（低圧注入工法） 1構造物当たり補修延べ延長 25m未満	1	構造物			SA667 0 施工 第0-0009号内訳表
断面修復工		1式			YQ360413

参考資料（*本工事費* 内訳表）

頁C-0004

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
左官工法		1式			YQ460413001
断面修復工（左官工法） 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり 1構造物当り修復延べ体積0.766m ³	1	構造物			SA669 0 施工 第0-0010号内訳表
表面保護		1式			YQ460413002
表面保護工 含浸系鉄筋腐食抑制工法	104	m ²			G0200 科目 第0003号内訳表
仮設工		1式			YQ2606
吊足場工費 橋梁補修用足場 朝顔付/供用月数0.9 橋梁架設工事の積算	1	式			F1000 0
防護工費 橋梁補修用足場 朝顔付/供用月数0.9 橋梁架設工事の積算	1	式			F1100 0
直接工事費					
直接工事費（端数処理 金額）					

参考資料（*本工事費* 内訳表）

頁C-0005

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
* * 共通仮設費率計算額*					
*					
* * 共通仮設費計**					
* * 純工事費**					
* * 現場管理費**					
* * 工事原価**					
一般管理費					
契約保証費					
一般管理費等					
* * 工事価格**					

参考資料（*本工事費* 内訳表）

頁C-0006

費目・工種・施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
消費税等相当額					
工事費					

伸縮継手補修工

G0100

科 目 内 訳 表

科目 第0001号内訳表

頁 C-0007

SMジョイント工法

17.11 m 当り

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
舗装版切断 コンクリート舗装版 15cm以下 全ての費用	32.0	m			SZD321 0 施工 第0-0001号内訳表
チッピング (厚2cm以下)	2.4	m ²			SZD661 0 施工 第0-0002号内訳表
伸縮装置止水部補修工 車道部 (幅60mm×深20mm) 地覆部 (幅20mm×深20mm)	17.11	m			V0200 0 施工 第0-0003号内訳表
小計	17.11	m			
計	1	m			

水切り設置工

G0300

科 目 内 訳 表

科目 第0002号内訳表

頁 C-0008

FRP水切り材

1 橋 当り

施工名称など	数量	単位	単価	金額	備考
FRP水切りL型 60×50×5×1500 ボルト・ナット付 建設物価_2025.10	27.6	m			W0301 999
シール材 ポリウレタン系 2成分形 建設物価, 積算資料_2025.10	1.08	L			W0302 999
樹脂カプセル M8用 L=70 ケミカルアンカー同等以上 建設物価, 積算資料_2025.10	56	本			W0303 999
橋梁用水切り材設置工 ボルト固定式 床板下面、作業車なし 土木コスト情報	27.6	m			W0304 999
計	1	橋			

07-*****00002-40

鹿沼市

科 目 内 訳 表

含浸系鉄筋腐食抑制工法

100 m² 当り

施 工 名 称 な ど

数 量

単 位

単 価

金 額

備 考

含浸系鉄筋腐食抑制材 プロテクトシルCIT 建設物価, 積算資料_2025.10	66.0	L			W2201 999
表面被覆工（塗装工法）下地処理 1橋当たり延べ施工量 100 m ²	1	橋			SD671 0 施工 第0-0004号内訳表
プロテクトシルCIT塗布工 RC構造（上向き） 施工面積100～299m ²	100	m ²			V0400 0 施工 第0-0005号内訳表
小計	100	m ²			
計	1	m ²			

舗装版切断
コンクリート舗装版
機械構成比：

15cm以下

SZD321

労務構成比：

材料構成比：

施工内訳表

施工 第0-0001号内訳表

頁C-0010

全ての費用
市場単価構成比：

1
標準単価：

m
当り

代表機材規格	構成比	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音			コンクリートカッタ [バキューム式・湿式] 超低騒音		MC448
その他(機械)			その他(機械)		EK009
特殊作業員			特殊作業員		RA005
土木一般世話役			土木一般世話役		RA125
普通作業員			普通作業員		RA010
その他(労務)			その他(労務)		ER009

施工内訳表

頁C-0011

当り

機械構成比：

労務構成比：

材料構成比：

全ての費用

市場単価構成比：

標準単価：

代表機材規格	構成比	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ブレード(コンクリートカッタ) 径18インチ(45cm)			ブレード(コンクリートカッタ) 径18インチ(45cm)		TSD05
ガソリン レギュラー スタンド			ガソリン レギュラー スタンド		TSX32
その他(材料)			その他(材料)		EZ009
積算単価			積算単価		EP001
小計					

チッピング (厚2cm以下)

SZD661

施工内訳表

施工 第0-0002号内訳表

頁C-0012

機械構成比:

労務構成比:

材料構成比:

市場単価構成比:

標準単価:

1 m 2 当り

代表機材規格	構成比	単価	代表機材規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
特殊作業員			特殊作業員		RA005
普通作業員			普通作業員		RA010
土木一般世話役			土木一般世話役		RA125
その他(労務)			その他(労務)		ER009
積算単価			積算単価		EP001
小計					

特単価適用日 : 07年10月10日
頁C-0013

施工内訳表

施工 第0-0003号内訳表

17.11 m 当り

伸縮装置止水部補修工
車道部 (幅60mm×深20mm)

V0200

地覆部 (幅20mm×深20mm)

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
SMジョイント (SMシール材) 4.0㍉/セット	9	セット			W0201
プライマー 専用 100ml/缶	2	缶			W0202
バックアップ材	17.11	m			W0203
ハンドミキサー損料	2	台/日			W0204
ハンドカッター損料	2	台/日			W0205
発動発電機 [ガソリンエンジン駆動] 費料		日			KQC05
計	17.11	m			
小計	1	m			

表面被覆工（塗装工法）下地処理
1橋当り延べ施工量 100m²

SD671

施工内訳表

施工 第0-0004号内訳表

頁C-0014

1 橋 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
諸雑費		%			#09
小計	1	橋			
A 1橋当り延べ施工量 A (m ²)	=100				

プロテクトシルCIT塗布工
RC構造(上向き)

V0400
施工面積100~299m²

施工内訳表

施工 第0-0005号内訳表

特単価適用日: 07年10月10日
頁C-0015

104.02 m² 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
機材費① コンクリート水文計・計量器	1	式/日			W0401
機材費② 電動噴霧器 (延長ホース、取替ノズル含む)	4	台/日			W0402
橋梁種別による補正係数 Sn					+00 RC構造・施工面積100~299m ² : S1=1.20
施工条件による補正係数 Kn					+00 上向き施工・施工面積100~299m ² : K2=1.30
計	104.02	m ²			
小計	1	m ²			

施工内訳表

施工 第0-0006号内訳表

般運搬

コンクリート(無筋)構造物とりこわし

SZA961

23.2km以下

労務構成比:

材料構成比:

全ての費用

市場単価構成比:

1 m 3 当り

標準単価:

代表機 労材 規格	構成比	単価	代表機 労材 規格(東京地区)	単価(東京地区)	備考
ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]			ダンプトラック [オンロード・ディーゼル]		MA405
運転手 (一般)			運転手 (一般)		RA075
軽油			軽油 パトロール給油		TSX24
積算単価			積算単価		EP001
小計					

處理費 (m³) (Co, As)
コンクリート (無筋)

SA0002

施工内訳表

施工 第0-0007号内訳表

頁 C-0017

100 m 3 当り
考

ひび割れ補修工（充てん工法）
1構造物当り補修延べ延長20m未満

SA665

施工内訳表

施工 第0-0008号内訳表

頁C-0018

1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
充填材	0.047	k g			TK008
諸雑費		%			#09
小計	1	構造物			
A 1構造物当り補修延べ延長区分	=1		C 1構造物当り充てん材設計量 (k g)	=0.039	

ひび割れ補修工（低圧注入工法）
1構造物当り補修延べ延長25m未満

SA667

施工内訳表

施工 第0-0009号内訳表

1 構造物 当り

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
注入材	0.062	k g			TKB05
シール材	0.336	k g			TKN03
低圧注入器具	6.000	個			TJ450
諸雑費		%			#09
小計	1	構造物			
A 1構造物当り補修延べ延長区分 D 1構造物当りのシール材設計量 (k g)	=1 =0.245		C 1構造物当りの注入材使用量 (k g) E 1構造物当りの低圧注入器具使用量 (個)	=0.062 =6	

断面修復工(左官工法)
鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理あり

SA669

施工内訳表

施工 第0-0010号内訳表

1 構造物 当り

1 構造物当り修復延べ体積 0.766 m³

名称・規格など	数量	単位	単価	金額	備考
土木一般世話役		人			RA125
特殊作業員		人			RA005
普通作業員		人			RA010
断面修復材	0.904	m ³			TJ460
諸雑費		%			#09
小計	1	構造物			
A 鉄筋ケレン・鉄筋防錆処理の有無	=1				
C 1構造物当り修復延べ体積 V (m ³)	=0.766				

入力データ一覧表

頁C-0021

コード	名称・規格など	数量/ 単位	単 価 額	条件 件 名 称
G0100	伸縮継手補修工 SMジョイント工法	17.11 m		
SZD321	舗装版切断 コンクリート舗装版	32.0 m		A=2, C=1, E=1, F=1 A=コンクリート舗装版, C=15cm以下, E=豪雪割増 工種条件と同じ, F=全て の費用
SZD661	チッピング (厚2cm以下)	2.4 m ²		
V0200	伸縮装置止水部補修工 車道部 (幅60mm×深20mm)	17.11 m		
G0200	表面保護工 含浸系鉄筋腐食抑制工法	100 m ²		
W2201	含浸系鉄筋腐食抑制材 プロテクトシルCIT	66.0 L		A= , B=0, C=999 A=単価, B=2次製品区分, C=機労材集計区分
SD671	表面被覆工 (塗装工法) 下地処理 1橋当たり延べ施工量100m ²	1 橋		A=100 A=1橋当たり延べ施工量 A (m ²)
V0400	プロテクトシルCIT塗布工 RC構造 (上向き)	100 m ²		
G0300	水切り設置工 FRP水切り材	1 橋		
W0301	FRP水切りL型 60×50×5×1500	27.6 m		A= , B=0, C=999 A=単価, B=2次製品区分, C=機労材集計区分
W0302	シール材 ポリウレタン系	1.08 L		A= , B=0, C=999 A=単価, B=2次製品区分, C=機労材集計区分
W0303	樹脂カプセル M8用 L=70	56 本		A= , B=0, C=999 A=単価, B=2次製品区分, C=機労材集計区分
W0304	橋梁用水切り材設置工 ボルト固定式	27.6 m		A= , B=0, C=999 A=単価, B=2次製品区分, C=機労材集計区分

入力データ一覧表

頁C-0022

コード	名称・規格など	数量/ 単位	単価 額	条 件 名 称
X1000	**本工事費**			
YQ160	林道修繕	1式		
YQ2604	橋梁修繕工	1式		
YQ360404	伸縮継手工	1式		
YQ460404002	埋設ジョイント補修	1式		
G0100	伸縮継手補修工 SMジョイント工法	17.1 m		
YQ460404005	殻運搬処理	1式		
SZA961	殻運搬 コンクリート(無筋)構造物とりこわし	0.05 m 3		A=1, B=1, C=1, E=1, F=1, G=21 A=コンクリート(無筋)構造物とりこわし, B=機械積込, C=DID区間なし, E=豪 雪割増 工種条件と同じ, F=全ての費用, G=運搬距離 [km]
SA0002	処理費 (m 3) (Co, As) コンクリート(無筋)	0.05 m 3		A=2 A=コンクリート(無筋)
YQ360408	排水施設修繕工	1式		
YQ460408002	排水施設工	1式		
G0300	水切り設置工 FRP水切り材	1 橋		
YQ360412	ひび割れ補修工	1式		
YQ460412001	充てん工法	1式		
SA665	ひび割れ補修工(充てん工法) 1構造物当り補修延べ延長20m未満	1 構造物		A=1, C=0.039 A=1構造物当り補修延べ延長20m未満, C=1構造物当り充てん材 設計量 (kg)
YQ460412002	低圧注入工法	1式		

入力データ一覧表

頁C-0023

コード	名称・規格など	数量／ 単位	単価 額	条件 件名	値 称号
SA667	ひび割れ補修工(低圧注入工法) 1構造物当り補修延べ延長25m未満	1 構造物		A=1, C=0.062, D=0.245, E=6 A=1構造物当り補修延べ延長25m未満, C=1構造物当りの注入材 使用量(kg), D=1構造物当りのシール材設計量(kg), E=1構造物当りの低圧注入器具使用量(個)	
YQ360413	断面修復工	1式			
YQ460413001	左官工法	1式			
SA669	断面修復工(左官工法) 鉄筋ケレン・鉄筋防鏽処理あり	1 構造物		A=1, B=2, C=0.766 A=鉄筋ケレン・鉄筋防鏽処理あり, B=1構造物当り修復延べ体積0 . 1m3以上, C=1構造物当り修復延べ体積 V(m3)	
YQ460413002	表面保護	1式			
G0200	表面保護工 含浸系鉄筋腐食抑制工法	104 m2			
YQ2606	仮設工	1式			
F1000	吊足場工費 橋梁補修用足場	1 式			
F1100	防護工費 橋梁補修用足場	1 式			
G0000	**直接工事費**				
Z0059	**直接工事費(端数処理金額)**				
Z0050	**共通仮設費率計算額**				
G1000	**共通仮設費計**				
G2000	**純工事費**				
Z0020	**現場管理費**				
G4000	**工事原価**				

入力データ一覧表

頁C-0024

コード	名称・規格など	数量/ 単位	単 価 金 額	条 件 名 称
Z0030	一般管理費			
Z0031	契約保証費			
G4100	*一般管理費等*			
G4800	**工事価格**			
Z0038	**消費税等相当額**			
G5000	**工事費**			
G6000	**工事価格計**			
Z0039	**消費税等相当額計**			
G4900	**工事費計**			

公 表 单 価 一 覧 表

工事名：令和7年度森林整備林道事業林道寄栗線神前橋橋梁補修工事

(備考)

- 1 本表に記載されている単価は、見積り若しくは特別調査により決定したものである。

2 適用区分に○印があるものは、次の価格を示す。「機」は機械器具等の損料または賃料、「労」は労務費、「材」は材料費。

第8章 数量計算

§ 1. 数量総括表

(1) 橋体工

工種	仕様	単位	数量	備考	
断面修復工	カッターエ t=10mm	m	132.50		
	下地処理工	m ²	14.46		
	プライマー	m ²	14.46		
	補修材 ポリマーセメントモルタル	m ³	0.766		
ひびわれ 注入工	延長	m	1.60		
	注入材 エポキシ樹脂	kg	0.062		
	シール材 エポキシ樹脂	kg	0.245		
	注射器具	個	6		
ひびわれ 充てん工	延長	m	0.30		
	カッターエ t=10mm, w=10mm	m	0.30		
	充填剤 可とう性エポキシ樹脂	kg	0.039		
表面保護工	含浸系鉄筋腐食抑制材	プロテクトシルCIT同等品以上	m ²	104.02	
水切り 設置工	水切り材 FRP製 L型(ボルト・ナット付)	m	27.6	N=19本 (1.5m/本)	
	樹脂カプセル M8用 L=70	本	56		
	弾性シーリング ポリウレタン系	L	1.08		

(2) 橋面工

工種	仕様	単位	数量	備考
伸縮継手 補修工	カッターエ コンクリート舗装 深さ75mm	m	32.00	
	コンクリートはつり	m ²	2.40	処分量0.05m ³
	SMジョイント I型 SMシール材(ポリブタジエン樹脂)	セット	9	(34.04L)
	プライマー 専用プライマー	缶	2	(174.66ml)
	バックアップ材	m	17.11	(39.58L)

(3) 仮設工

工種	仕様	単位	数量	備考
仮設工 吊足場	朝顔・シート張防護付	m ²	66.8	

§ 2. 数量計算

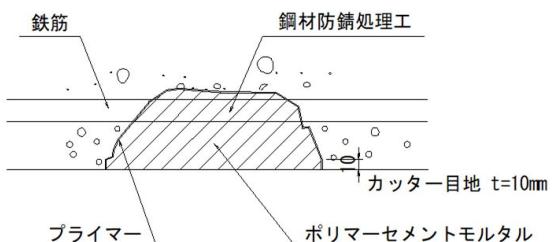
2-1. 断面修復工（左官工法）

(1) 断面修復工集計

名 称	規 格	数 量			備 考
		周 長 (m)	面 積 (m ²)	体 積 (m ³)	
左官工法	ポリマーセメントモルタル	132.500	14.463	0.766	

(2) 概要図

断面修復工詳細図
(ポリマーセメントモルタル)



(3) 断面修復工数量

桁下面（剥離・鉄筋露出、うき）

部 材	No.	形 状 (mm)	周 長 (m)	面 積 (m ²)	体 積 (m ³)	備 考
上部工 (主桁、床版、 横桁)	1-1	550 × 250 t= 50	1.600	0.138	0.007	
		150 × 100 t= 50	0.500	0.015	0.001	
		250 × 100 t= 50	0.700	0.025	0.001	
		200 × 100 t= 50	0.600	0.020	0.001	
		350 × 150 t= 50	1.000	0.053	0.003	
	1-2	200 × 150 t= 50	0.700	0.030	0.002	
		100 × 50 t= 50	0.300	0.005	0.001	
		50 × 50 t= 50	0.200	0.003	0.001	
		100 × 50 t= 50	0.300	0.005	0.001	
	1-4	250 × 50 t= 50	0.600	0.013	0.001	
		150 × 100 t= 50	0.500	0.015	0.001	
		150 × 150 t= 50	0.600	0.023	0.001	
	1-5	200 × 150 t= 50	0.700	0.030	0.002	
		400 × 150 t= 50	1.100	0.060	0.003	
		200 × 50 t= 50	0.500	0.010	0.001	
		100 × 50 t= 50	0.300	0.005	0.001	
		100 × 50 t= 50	0.300	0.005	0.001	
		150 × 50 t= 50	0.400	0.008	0.001	
		250 × 50 t= 50	0.600	0.013	0.001	
	1-7	150 × 50 t= 50	0.400	0.008	0.001	
		400 × 200 t= 50	1.200	0.080	0.004	

部材	No.	形 状 (mm)			周 長 (m)	面 積 (m ²)	体 積 (m ³)	備 考
上部工 (主桁, 床版, 横桁)	1-8	350	×	200	$t = 50$	1.100	0.070	0.004
	1-9	1150	×	500	$t = 50$	3.300	0.575	0.029
		200	×	150	$t = 50$	0.700	0.030	0.002
		800	×	250	$t = 50$	2.100	0.200	0.010
	1-10	150	×	100	$t = 50$	0.500	0.015	0.001
		350	×	100	$t = 50$	0.900	0.035	0.002
		1150	×	300	$t = 50$	2.900	0.345	0.017
	1-11	800	×	200	$t = 50$	2.000	0.160	0.008
	1-12	300	×	150	$t = 50$	0.900	0.045	0.002
		350	×	150	$t = 50$	1.000	0.053	0.003
	1-13	200	×	150	$t = 50$	0.700	0.030	0.002
		250	×	150	$t = 50$	0.800	0.038	0.002
		150	×	150	$t = 50$	0.600	0.023	0.001
		450	×	200	$t = 50$	1.300	0.090	0.005
		200	×	150	$t = 50$	0.700	0.030	0.002
		150	×	150	$t = 50$	0.600	0.023	0.001
	1-14	250	×	200	$t = 50$	0.900	0.050	0.003
		1900	×	150	$t = 50$	4.100	0.285	0.014
	1-15	200	×	200	$t = 50$	0.800	0.040	0.002
	1-16	500	×	450	$t = 50$	1.900	0.225	0.011
		1000	×	600	$t = 50$	3.200	0.600	0.030
	1-17	350	×	200	$t = 50$	1.100	0.070	0.004
	1-18	600	×	500	$t = 50$	2.200	0.300	0.015
	1-19	1150	×	200	$t = 50$	2.700	0.230	0.012
	1-20	1100	×	600	$t = 50$	3.400	0.660	0.033
	1-21	450	×	300	$t = 50$	1.500	0.135	0.007
	1-22	1200	×	300	$t = 50$	3.000	0.360	0.018
		3000	×	400	$t = 50$	6.800	1.200	0.060
		350	×	150	$t = 50$	1.000	0.053	0.003
		550	×	450	$t = 50$	2.000	0.248	0.012
		1400	×	700	$t = 50$	4.200	0.980	0.049
	1-23	800	×	250	$t = 50$	2.100	0.200	0.010
	1-24	1150	×	200	$t = 50$	2.700	0.230	0.012
	1-25	1100	×	600	$t = 50$	3.400	0.660	0.033
		1100	×	200	$t = 50$	2.600	0.220	0.011
		2000	×	750	$t = 50$	5.500	1.500	0.075
	1-26	400	×	200	$t = 50$	1.200	0.080	0.004
		400	×	300	$t = 50$	1.400	0.120	0.006
	1-27	300	×	250	$t = 50$	1.100	0.075	0.004
	1-28	250	×	100	$t = 50$	0.700	0.025	0.001
		350	×	100	$t = 50$	0.900	0.035	0.002
		250	×	100	$t = 50$	0.700	0.025	0.001
		100	×	100	$t = 50$	0.400	0.010	0.001

部材	No.	形 状 (mm)	周長 (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備 考
上部工 (主桁, 床版, 横桁)	1-29	550 × 300 t= 50	1.700	0.165	0.008	
		400 × 150 t= 50	1.100	0.060	0.003	
		350 × 250 t= 50	1.200	0.088	0.004	
		400 × 150 t= 50	1.100	0.060	0.003	
		350 × 100 t= 50	0.900	0.035	0.002	
		150 × 100 t= 50	0.500	0.015	0.001	
		250 × 200 t= 50	0.900	0.050	0.003	
	1-30	400 × 400 t= 50	1.600	0.160	0.008	
		300 × 150 t= 50	0.900	0.045	0.002	
		450 × 150 t= 50	1.200	0.068	0.003	
		450 × 200 t= 50	1.300	0.090	0.005	
	1-31	450 × 100 t= 50	1.100	0.045	0.002	
		400 × 250 t= 50	1.300	0.100	0.005	
		300 × 200 t= 50	1.000	0.060	0.003	
		500 × 400 t= 50	1.800	0.200	0.010	
	1-32	550 × 500 t= 50	2.100	0.275	0.014	
	1-33	1100 × 400 t= 50	3.000	0.440	0.022	
	1-34	500 × 400 t= 50	1.800	0.200	0.010	
		300 × 300 t= 50	1.200	0.090	0.005	
		450 × 300 t= 50	1.500	0.135	0.007	
		350 × 300 t= 50	1.300	0.105	0.005	
	1-35	500 × 350 t= 50	1.700	0.175	0.009	
		300 × 300 t= 50	1.200	0.090	0.005	
小 計			126.100	13.693	0.699	

※ 上部工の修復深さを50mmと想定。

橋面 (変形・欠損)

部材	No.	形 状 (mm)	周長 (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備 考
上部工 (防護柵)	2-1	500 × 150 t= 50	1.300	0.075	0.004	
	2-2	450 × 300 t= 50	1.500	0.135	0.007	
小 計			2.800	0.210	0.011	

※ 上部工の修復深さを50mmと想定。

A2橋台、P1橋脚 (剥離・鉄筋露出、うき)

部材	No.	形 状 (mm)	周長 (m)	面積 (m ²)	体積 (m ³)	備 考
下部工 (躯体)	4-1	100 × 100 t= 100	0.400	0.010	0.001	
	4-2	1100 × 500 t= 100	3.200	0.550	0.055	
小 計			3.600	0.560	0.056	

※ 下部工の修復深さを100mmと想定。

(4) 数量計算

① カッターエ

$$L = 126.100 + 2.800 + 3.600 = 132.500 \text{ m}$$

② 下地処理工

$$A = 13.693 + 0.210 + 0.560 = 14.463 \text{ m}^2$$

③ プライマー

$$A = 13.693 + 0.210 + 0.560 = 14.463 \text{ m}^2$$

④ 補修材 (ポリマーセメントモルタル)

$$V = 0.699 + 0.011 + 0.056 = 0.766 \text{ m}^3$$

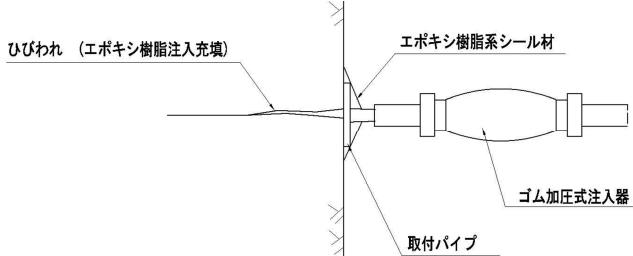
2-2. ひびわれ補修工

2-2-1. ひびわれ注入工

(1) ひびわれ注入工集計

部材	No.	ひびわれ幅 (mm)	延長 (m)	(幅×延長)	備考
上部工 (主桁)	3-1	w= 0.40	0.400	0.16	
		w= 0.30	0.300	0.09	
	3-2	w= 0.30	0.600	0.18	
		w= 0.30	0.300	0.09	
合 計			1.600	0.520	

(2) 概要図



注入工法詳細図

(3) 数量計算

① ひびわれ延長

$$L = 1.600 \text{ m} = 1.600 \text{ m}$$

② 注入材 (エポキシ樹脂)

$$\text{平均ひびわれ幅} : w = 0.325 \text{ mm} \quad \text{※ } 0.520 / 1.600 = 0.325$$

注入深さ : h = 0.10 m 注入深さは、100mmと仮定する。

$$\text{比 重} : \gamma = 1200 \text{ kg/m}^3$$

・ 使用数量

$$W = 0.325 / 1000 \times 0.10 \times 1.60 \times 1200 \text{ kg/m}^3 = 0.062 \text{ kg}$$

・ 10m当たり数量

$$W = 0.325 / 1000 \times 0.10 \times 10.00 \times 1200 \text{ kg/m}^3 = 0.390 \text{ kg}$$

③ シール材 (エポキシ樹脂)

$$\text{シール幅} : B = 30 \text{ mm}$$

$$\text{シール厚} : h = 3 \text{ mm}$$

$$\text{比 重} : \gamma = 1700 \text{ kg/m}^3$$

・ 使用数量

$$W = 0.030 \times 0.003 \times 1.60 \times 1700 \text{ kg/m}^3 = 0.245 \text{ kg}$$

・ 10m当たり数量

$$W = 0.030 \times 0.003 \times 10.00 \times 1700 \text{ kg/m}^3 = 1.530 \text{ kg}$$

④ 注入器具

注射器具配置間隔 : 250mmを想定 (1m当たり4個)

・ 使用数量

$$W = 1.600 / 0.25 = 6 \text{ 個}$$

・ 10m当たり数量

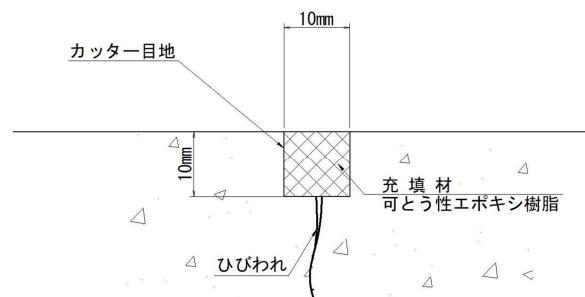
$$W = 10.00 / 0.25 = 40 \text{ 個}$$

2-2-2. ひびわれ充てん工

(1) ひびわれ充てん工集計

部材	No.	ひびわれ幅 (mm)	延長 (m)	備考
下部工 (躯体)	5-1	w= 4.0	0.300	
合計			0.300	

(2) 概要図



充てん工法詳細図

(3) 数量計算

① カッターモルタル延長

$$L = 0.300 \text{ m} = 0.300 \text{ m}$$

② 充填材 (可とう性エポキシ樹脂)

$$\text{カット幅} : B = 10 \text{ mm}$$

$$\text{カット深さ} : h = 10 \text{ mm}$$

$$\text{比重} : \gamma = 1300 \text{ kg/m}^3$$

・ 使用数量

$$W = 0.010 \times 0.010 \times 0.300 \times 1300 \text{ kg/m}^3 = 0.039 \text{ kg}$$

・ 10m当たり数量

$$W = 0.010 \times 0.010 \times 10.000 \times 1300 \text{ kg/m}^3 = 1.300 \text{ kg}$$

2-3. 表面保護工（鉄筋腐食抑制工法）

（1）表面保護工集計

含浸系鉄筋腐食抑制材（プロテクトシルCIT同等品以上）

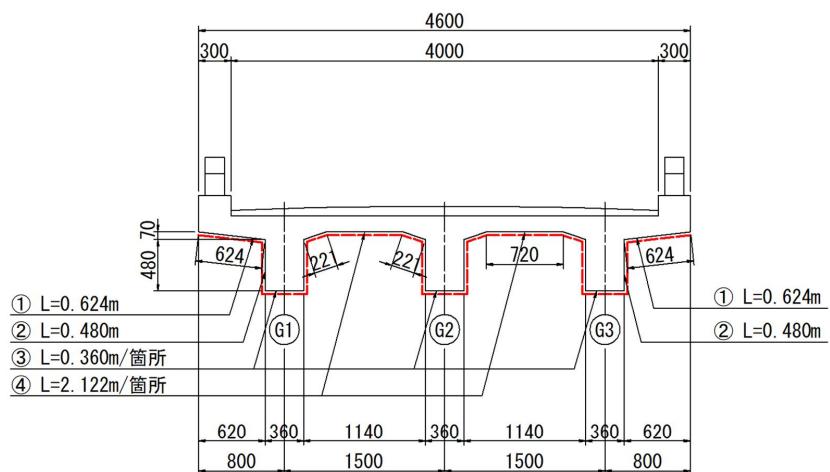
1m²あたり標準使用量 0.66L

塗布位置	面 積
① 張出床版	13.66 m ²
② 外桁外側面	12.58 m ²
③ 主桁底面	12.10 m ²
④ 主桁内面・中間床版	52.54 m ²
⑤ 端横桁下面	2.69 m ²
⑥ 端横桁正面	3.71 m ²
⑦ 隅切り	6.74 m ²
合計塗布面積	104.02 m ²

（2）概要図

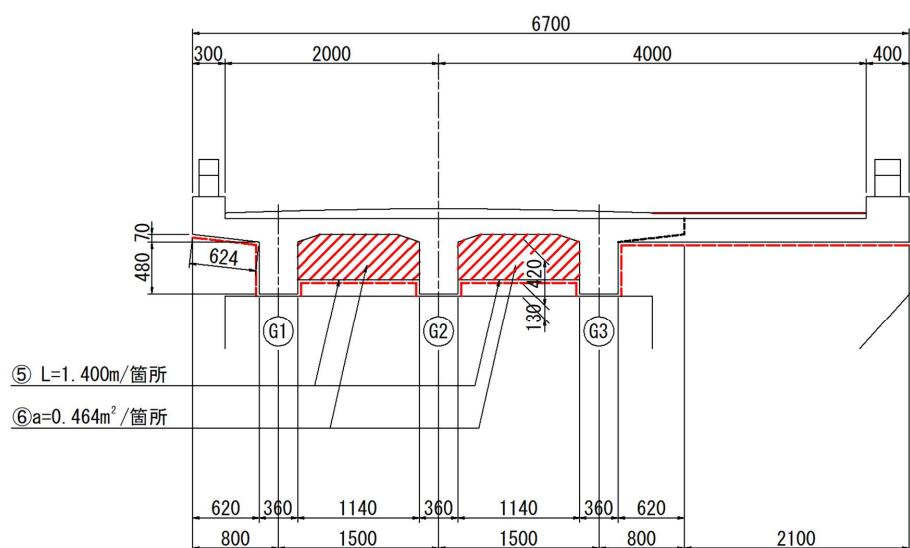
断面図

支間中央

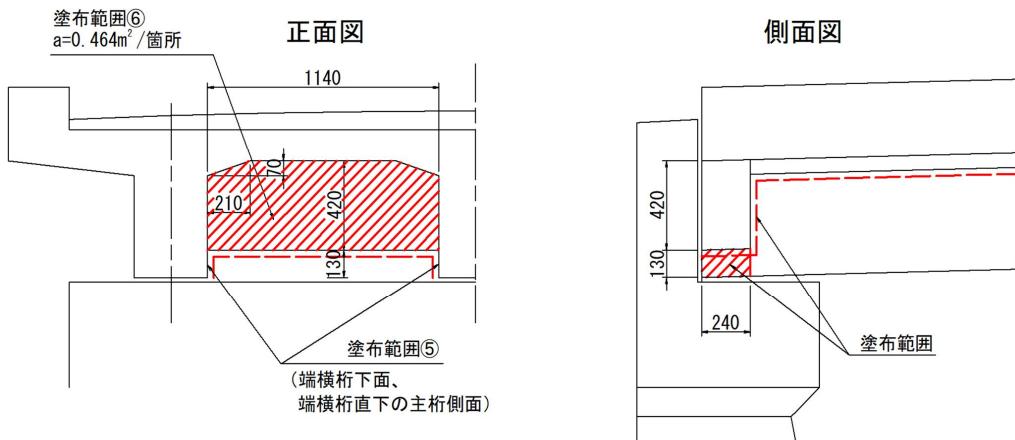


桁端付近 (P1)

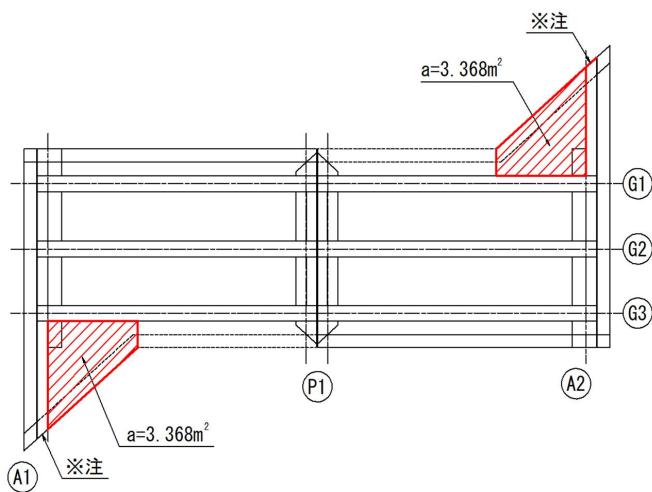
桁端付近 (A1)



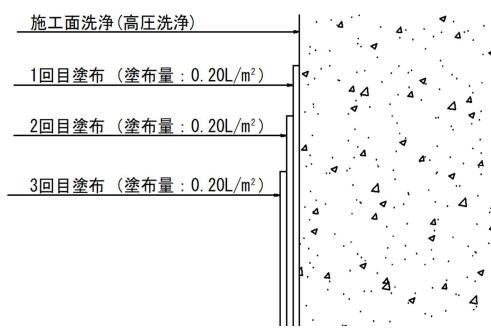
端横桁塗布範囲（塗布位置⑤, ⑥）



隅切り部塗布範囲（塗布位置⑦）



表面保護工（含浸系鉄筋腐食抑制工法）



※注) 隅切りを支持する端部枝桁は、表面保護工の範囲に含まないものとする。

※表面保護工の施工範囲は、上図の破線及び斜線の範囲とする。
なお、塗布延長等は以下の通りとする。

塗布位置① : 2径間分の桁長—隅切りの橋軸方向長さ $L=10.947m$

塗布位置② : 2径間分の桁長—隅切り部の枝桁厚さ $L=13.100m$

塗布位置③ : 桁長—橋台桁掛かり長さ—橋脚桁掛かり長さ $L=5.600m$

塗布位置④ : 桁長—端横桁2ヶ所分の厚さ $L=6.190m$

塗布位置⑤ : 端横桁の厚さ $L=0.240m$

塗布位置⑥ : 端横桁の箇所数 $N=8$ 箇所

塗布位置⑦ : 隅切りの箇所数 $N=2$ 箇所

(3) 塗布数量

① 張出床版

CAD計測

$$A = 0.624 \times (6.670 \times 2 - 2.393) \times 2 \text{ 箇所} = 13.66 \text{ m}^2$$

② 外桁外側面

$$A = 0.480 \times (6.670 \times 2 - 0.240) \times 2 \text{ 箇所} = 12.58 \text{ m}^2$$

③ 主桁底面

$$A = 0.360 \times (6.670 - 0.580 - 0.490) \times 6 \text{ 箇所} = 12.10 \text{ m}^2$$

④ 主桁内面・中間床版

$$A = 2.122 \times (6.670 - 0.240 \times 2) \times 4 \text{ 箇所} = 52.54 \text{ m}^2$$

⑤ 端横桁下面

$$A = 1.400 \times 0.240 \times 8 \text{ 箇所} = 2.69 \text{ m}^2$$

⑥ 端横桁正面

$$A = 0.464 \times 8 \text{ 箇所} = 3.71 \text{ m}^2$$

⑦ 隅切り

$$A = 3.368 \times 2 \text{ 箇所} = 6.74 \text{ m}^2$$

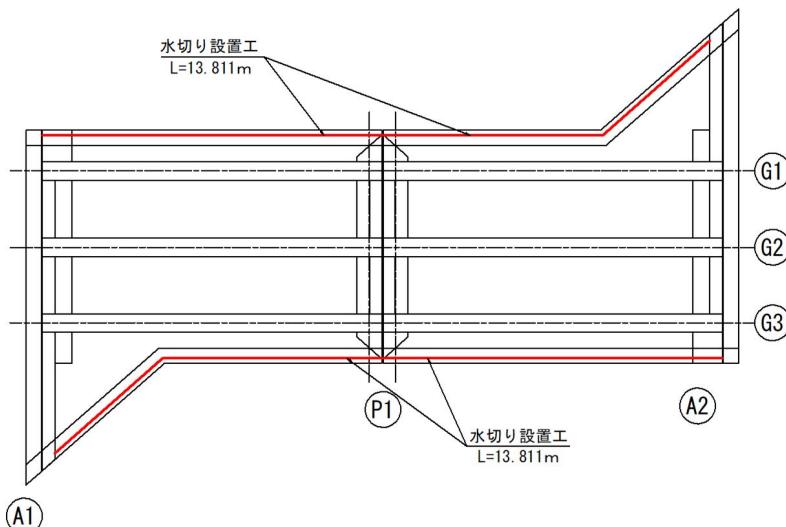
2-4. 水切り設置工

(1) 水切り設置工集計

名 称	仕 様	単位	合 計	備 考
水切り材	FRP製 L型 (ボルト・ナット付)	m	27.62	N=19本 (1.5m/本)
樹脂カプセル	M8用 L=70	本	56	
弾性シーリング	ポリウレタン系	L	1.08	0.039L/m

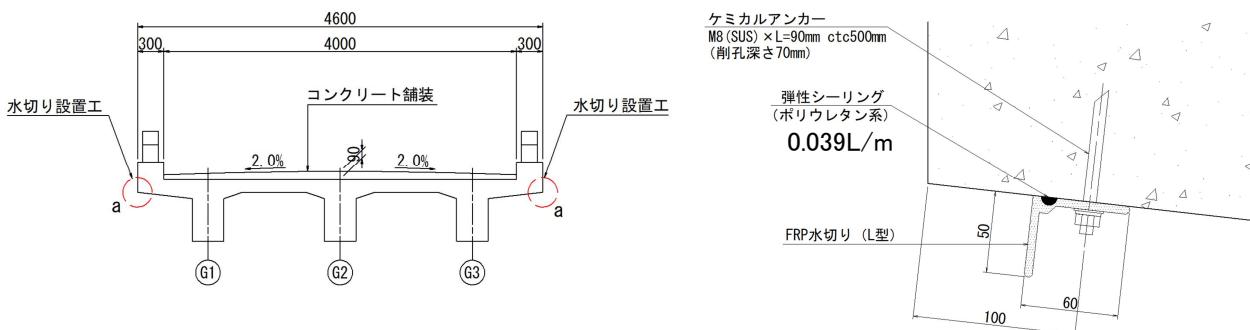
(2) 概要図

平面図



断面図

"a"部 詳細図



※張出床版の全長にFRP水切りを設置する。

(3) 水切り設置工材料数量

① 水切り材延長 (CAD計測)

$$L = 13.811 + 13.811 = 27.622 \text{ m}$$

水切り材本数

$$N = 27.622 \div 1.50 \text{ m/本} = 18.41$$

$$\therefore 19 \text{ 本}$$

② 樹脂カプセル (水切り材延長0.5m当たり1本使用)

$$N1 = 13.811 / 0.50 = 28$$

$$N2 = 13.811 / 0.50 = 28$$

$$\text{計} \quad 56 \text{ 本}$$

③ 弾性シーリング (水切り材延長1m当たり0.039L使用)

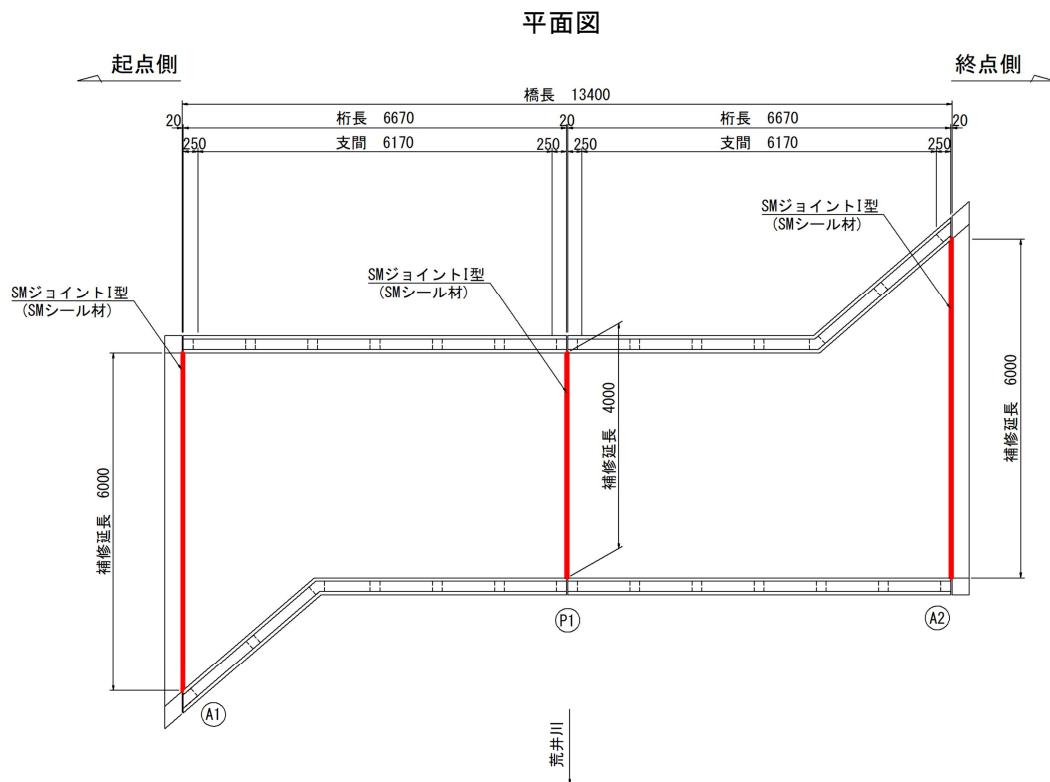
$$L = 0.039 \text{ L/m} \times 27.622 = 1.08 \text{ L}$$

2-5. 伸縮継手補修工

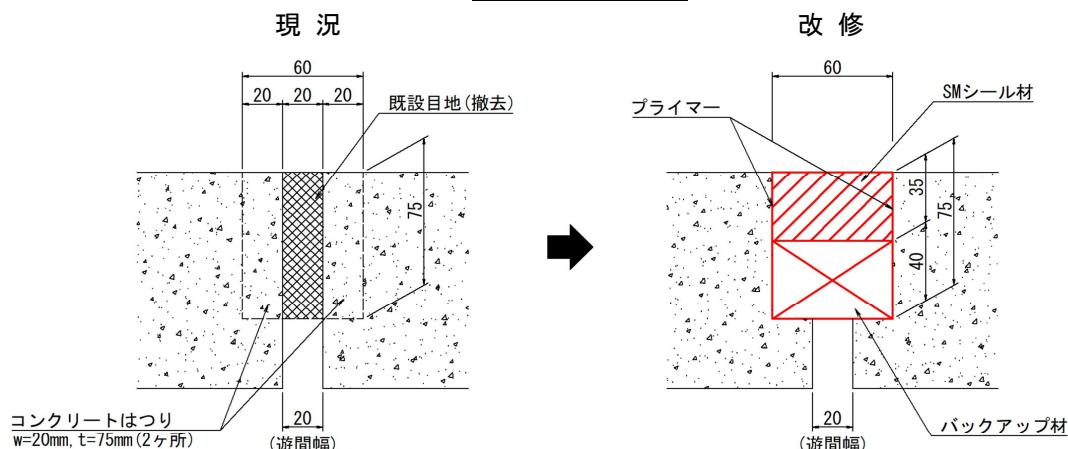
(1) 伸縮継手補修工集計

名 称	仕 様	単位	数 量	備 考
カッター工	コンクリート舗装 深さ75mm	m	32.00	
コンクリートはつり		m ²	2.40	車道部のみ
SMジョイントI型	SMシール材 (ポリブタジエン樹脂)	セット	9.00	4L/1セット
プライマー	専用プライマー	缶	2.00	100mL/缶
バックアップ材		m	17.11	

(2) 概要図



車道部補修要領図

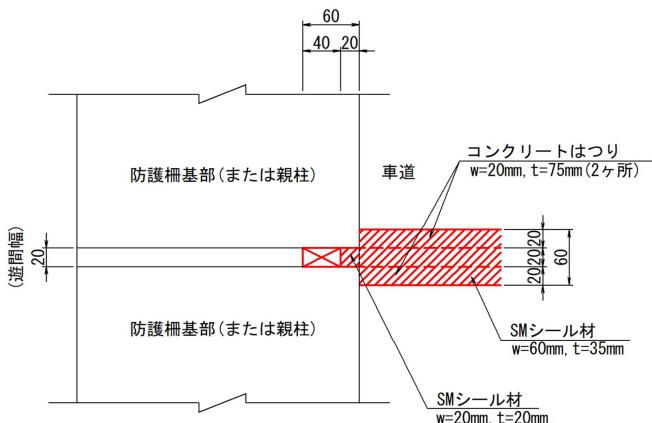


※既設目地の両側にカッターを入れ、コンクリートをはつり取りながら、路面から深さ75mmまで既設目地材を撤去する。

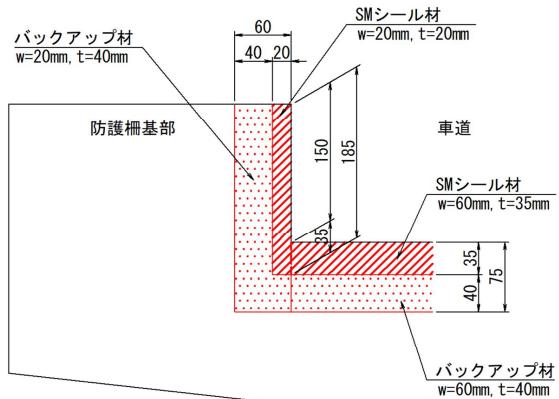
※既設目地材の撤去完了後、バックアップ材を隙間なく詰め込み、バックアップ材より上のコンクリート面へプライマーを塗布してSMシール材を充填する。

路側部補修要領図

平面図



側面図



※路側の立ち上がり部（防護柵基部同士、または防護柵基部と親柱の間）は、上図に示すように路面から150mmの高さまでシール材を充填する。
なお、立ち上がり部におけるシール材の充填幅は現況遊間幅（想定20mm）のままでし、充填厚さは20mmとする。
(バックアップ材配置以降の施工手順は車道部に準ずる)

(3) 伸縮継手補修工数量計算

① 延長

$$\begin{array}{lcl}
 \text{車道部 } L1 & = & 6.00 + 4.00 + 6.00 \\
 \text{路側部 } L2 & = & 0.185 \times 6 \text{ 箇所} \\
 & & = 16.00 \text{ m} \\
 & & = 1.110 \text{ m} \\
 \text{計} & & = 17.11 \text{ m}
 \end{array}$$

② カッターアーク（深さ75mm：伸縮装置1箇所当たり2列）

$$\text{車道部 } L = 16.00 \times 2 = 32.00 \text{ m}$$

③ コンクリートはつり

$$\begin{array}{lcl}
 \text{車道部 } A = 16.00 \times 0.075 \times 2 & & = 2.40 \text{ m}^2 \\
 V = 2.40 \times 0.020 & & = 0.05 \text{ m}^3
 \end{array}$$

④ SMジョイントI型（SMシール材）

$$\begin{array}{lcl}
 \text{車道部 } V1 = 0.060 \times 0.035 \times 16.00 \times 1000 & & = 33.60 \\
 \text{路側部 } V2 = 0.020 \times 0.020 \times 1.110 \times 1000 & & = 0.44 \\
 \text{計} & & = 34.04 \text{ L}
 \end{array}$$

$$4L / 1\text{セット} = 34.040 \div 4 = 8.51 \approx \underline{9\text{セット}}$$

⑤ プライマー（1m²当たり150ml）

$$\begin{array}{lcl}
 \text{車道部 } V1 = (0.035 + 0.035) \times 16.00 \times 150 & & = 168.00 \\
 \text{路側部 } V2 = (0.020 + 0.020) \times 1.110 \times 150 & & = 6.66 \\
 \text{計} & & = 174.66 \text{ ml}
 \end{array}$$

$$100\text{mL} / 1\text{缶} = 174.66 \div 100 = 1.75 \approx \underline{2\text{缶}}$$

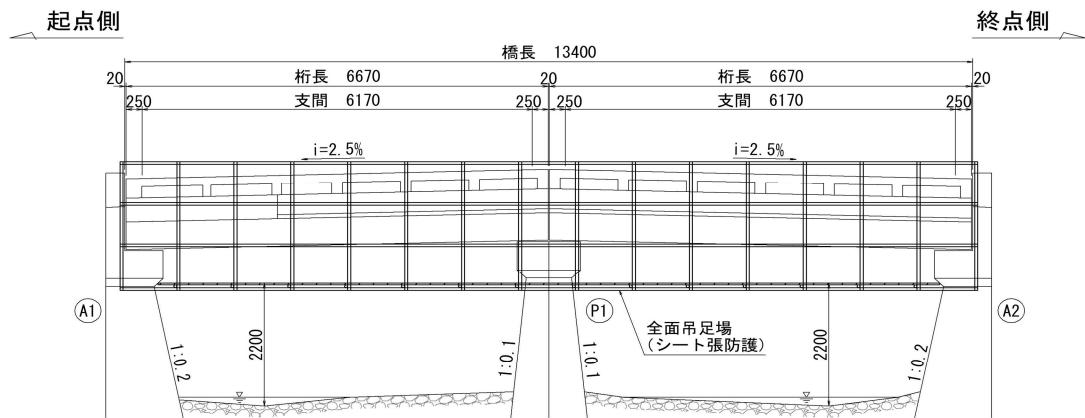
⑥ バックアップ材（17.11mあたり使用量）

$$\begin{array}{lcl}
 \text{車道部 } V1 = 0.040 \times 0.060 \times 16.00 \times 1000 & & = 38.40 \\
 \text{路側部 } L = ((0.185 + 0.02) + (0.185 + 0.04 \\
 & + 0.06)) \div 2 \times 6 & & = 1.47 \text{ m} \\
 V2 = 0.020 \times 0.040 \times 1.47 \times 1000 & & \\
 & & = 1.18 \\
 \text{計} & & = 39.58 \text{ L}
 \end{array}$$

2-6. 仮設工

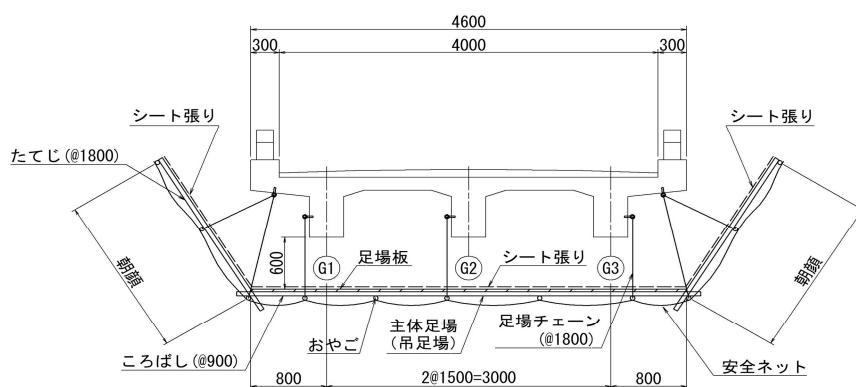
(1) 概要図

側面図



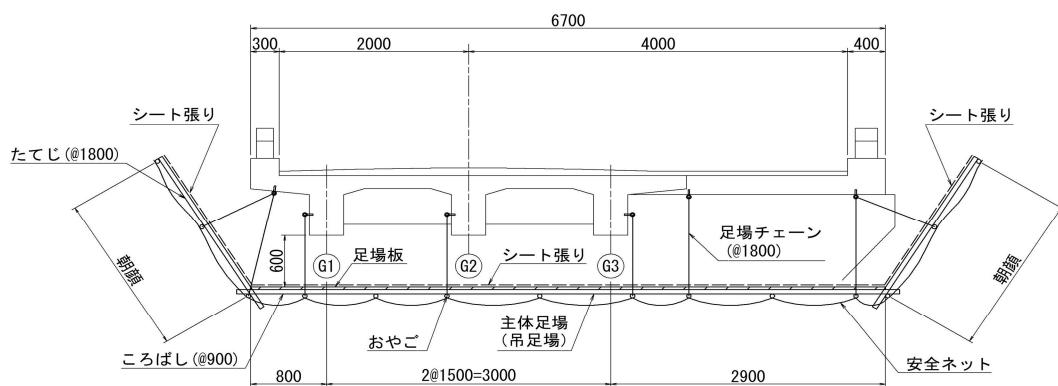
断面図

支間中央



桁端付近 (P1)

桁端付近 (A1)



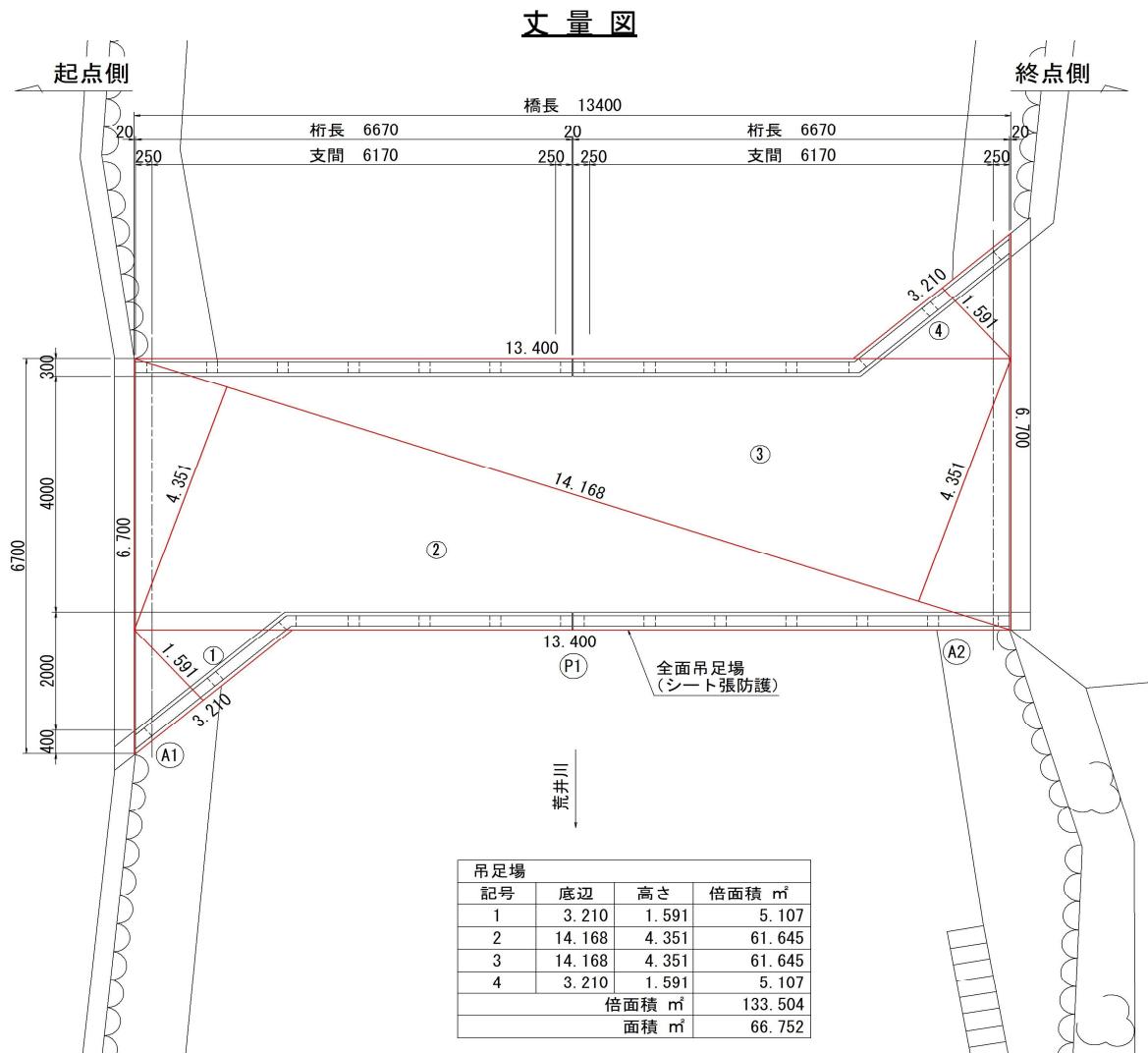
(2) 足場面積

吊足場：朝顔・シート張防護付

$$A = 66.752$$

$$= 66.8 \text{ m}^2$$

※面積は丈量図を参照



足場工費

R7林道寄栗線神前橋橋梁補修工事

「橋梁架設工事の積算」参照

足場面積

66.8 m²

※2-6「仮設工」より

1-1 吊足場

S1:損料係数	425
X:足場供用月数	0.9
N1:歩掛係数	0.13
y:橋梁特殊工単価	
A:橋面積	66.8

$$\text{工費} = (S1 \times X + N1 \times y) \times A$$

足場工費

①

足場工費計

①+②

1-2 朝顔 (両側)

S2:損料係数	50
X:足場供用月数	0.9
N2:歩掛係数	0.022
y:橋梁特殊工単価	
A:橋面積	66.8

$$\text{工費} = (S2 \times X + N2 \times y) \times A$$

足場工費

②

2-1 床面シート張防護工

S:損料係数	79
X:足場供用月数	0.9
N1:歩掛係数	0.007
y:橋梁特殊工単価	
A:橋面積	66.8

$$\text{工費} = (S1 \times X + N1 \times y) \times A$$

防護工費

③

防護工費計

③+④

2-2 シート張防護工 (朝顔部)

S:損料係数	42
X:足場供用月数	0.9
N1:歩掛係数	0.004
y:橋梁特殊工単価	
A:橋面積	66.8

$$\text{工費} = (S2 \times X + (N2 \times k1 \times k2) \times y) \times A$$

防護工費

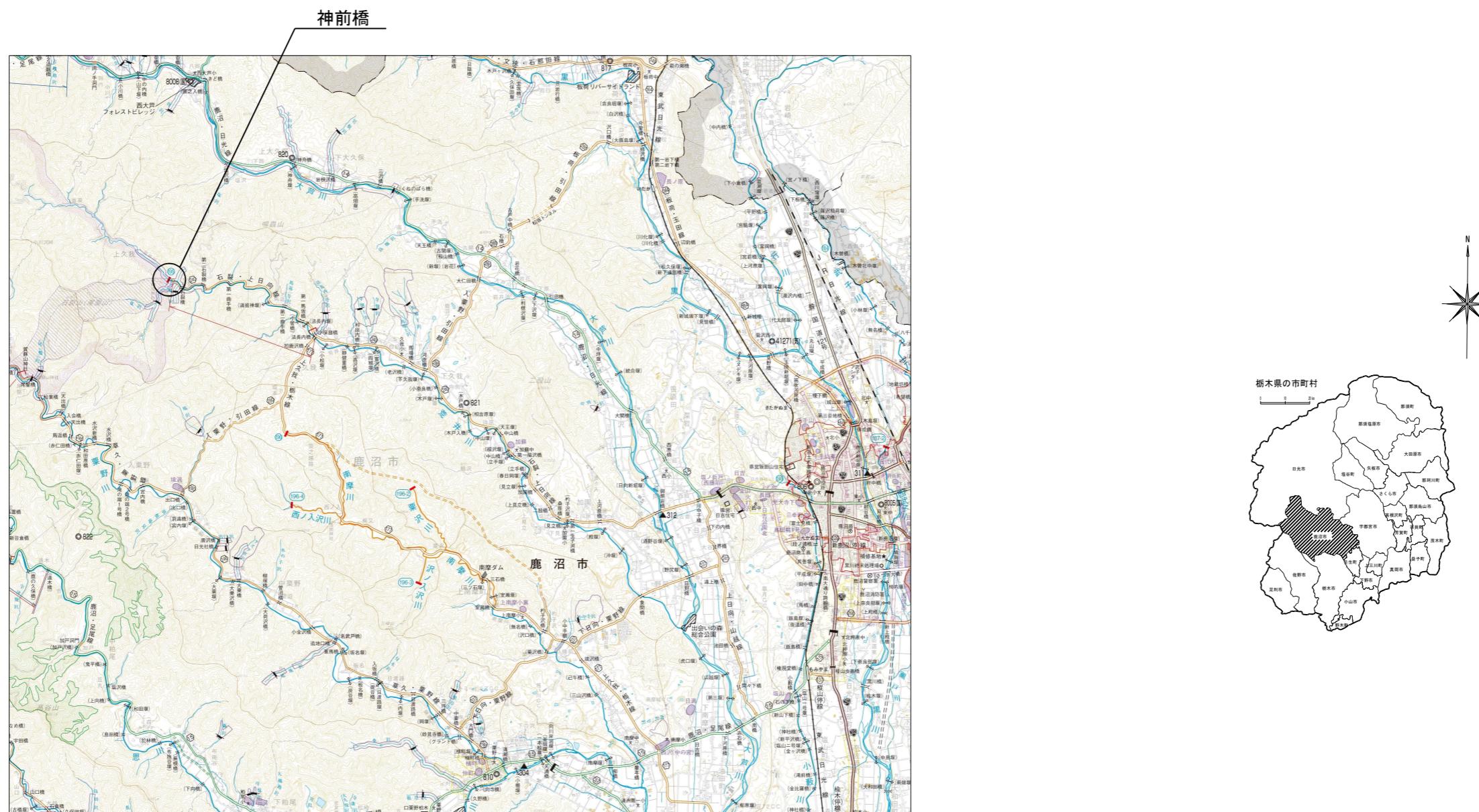
④

適用：橋梁特殊工単価は栃木県労務資材単価（10月）

※1,000円未満切り捨て

位置図

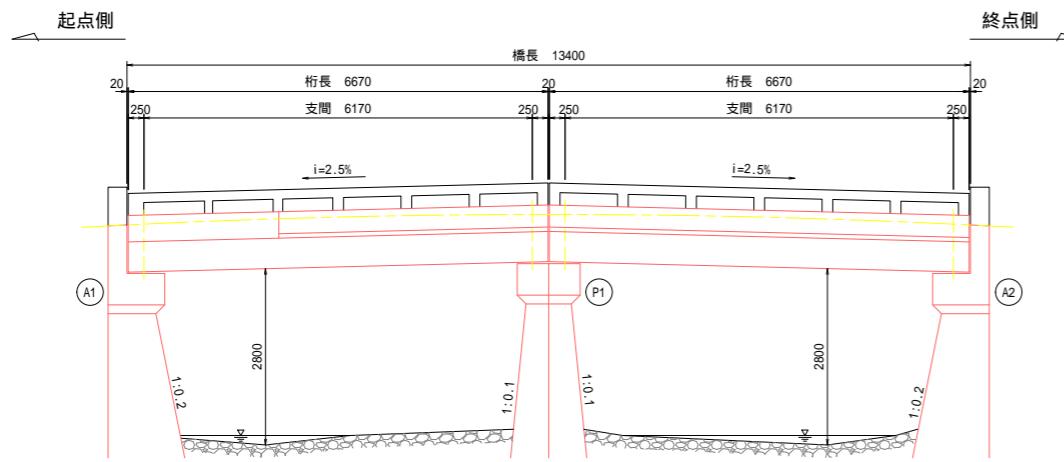
S=1:50,000



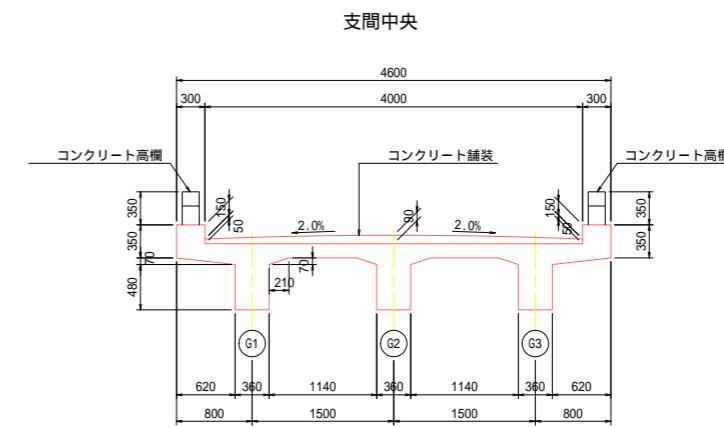
工事名	令和7年度 森林整備林道事業林道寄栗線神前橋橋梁修理工事		
図面名	位置図		
作成年月日			
縮尺	1:50,000	図面番号	1
会社名			
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課		

現橋一般図

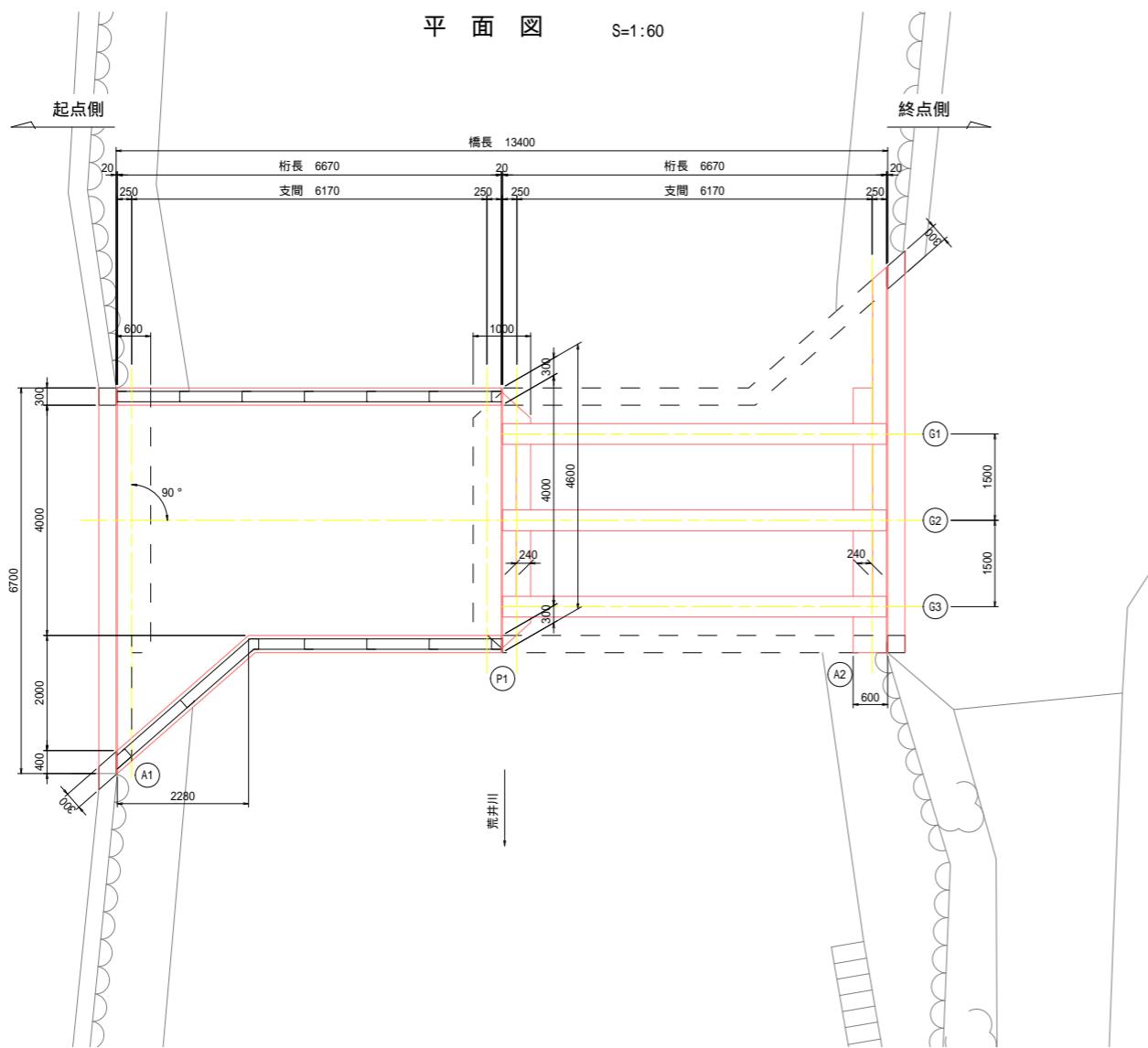
側面図 S=1:60



断面図 S=1:40

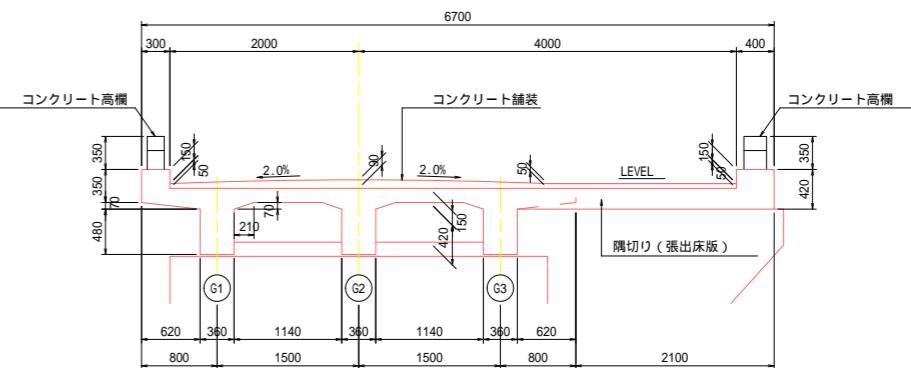


平面図 S=1:60



桁端付近(P1)

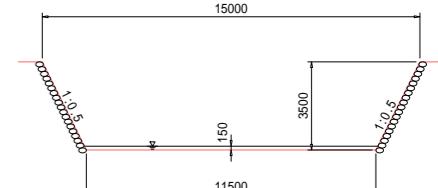
桁端付近(A1)



現橋諸元

上 部 工	建設年	昭和31年(1956年)
	適用示方書	昭和30年 林道規程(推定)
	道路規格	自動車道 2級(推定)
	縦断勾配	放物線勾配 $i = 2.5\%$ (A1 → P1 → A2)
	横断勾配	放物線勾配 $i = 2.0\%$ (拵み形状)
	活荷重	A-9,L-9(推定)
	添架物	なし
	構造形式	2径単純鉄筋コンクリートT桁橋
	橋長	13.400 m
	支間	28 6.670 m
下 部 工	斜角	90° 00
	幅員	0.300m + 4.000m + 0.300m (地盤) + (車道) + (地盤)
	材料	コンクリート $ck = 240\text{kg/cm}^2$ (推定) SS41(推定)
	鉄筋	
	支承	平面支承(鋼製)
	構造形式	重力式橋台、壁式橋脚
	基礎形式	直接基礎(推定)
	材料	コンクリート $ck = 180\text{kg/cm}^2$ (推定)
	路線名	林道寄栗線
	河川条件	一級河川 荒井川

河川断面図 S=1:150



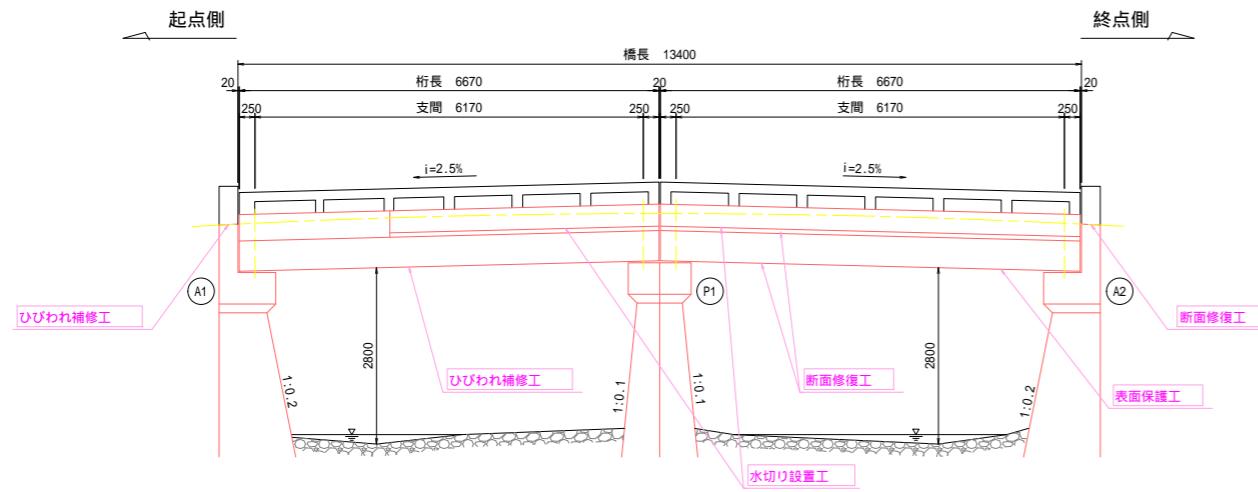
共通
注1:形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2:施工関連寸法は、現地計測により適宜調整すること。

工事名	令和7年度	
図面名	現橋一般図	
作成年月日		
縮尺	図示	図面番号 2
会社名		
事務所名	鹿沼役所 経済部林政課	

補修一般図

側面図

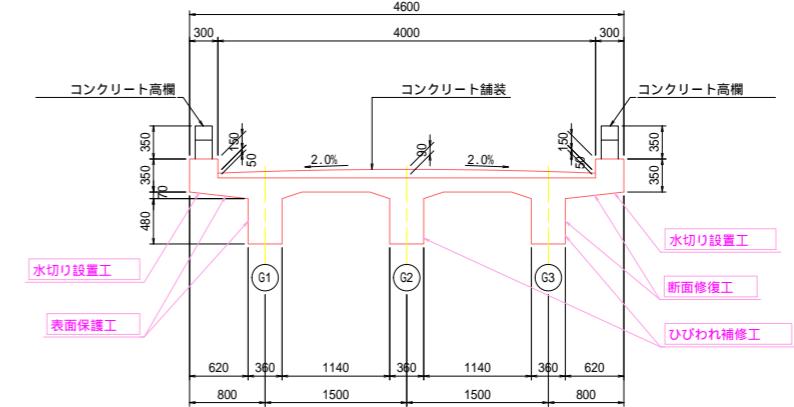
S=1:60



断面図

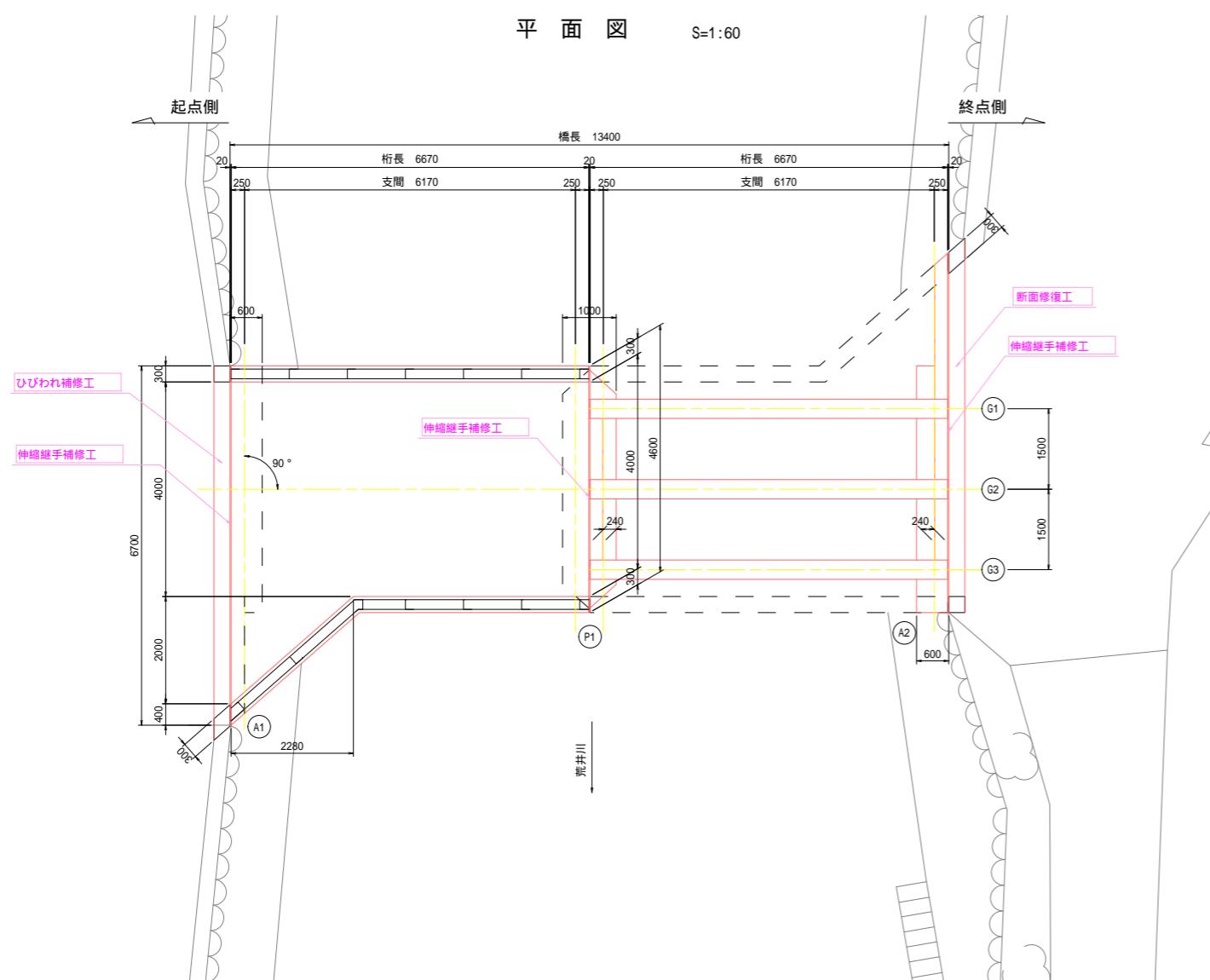
S=1:40

支間中央



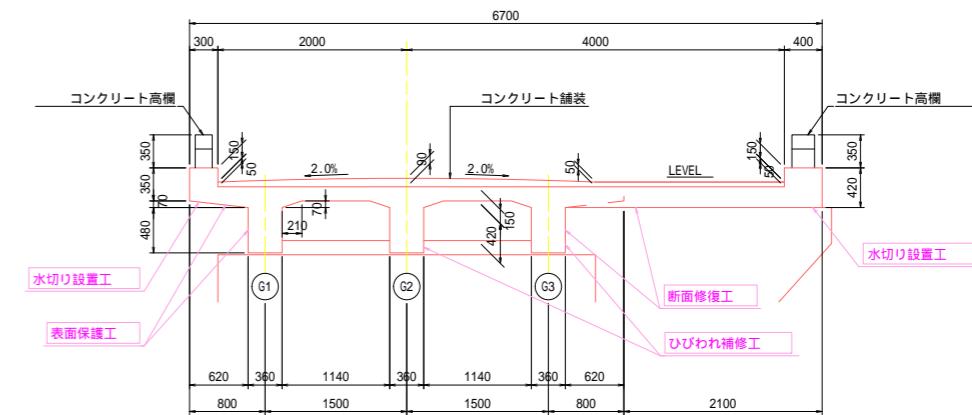
平面図

S=1:60



桁端付近(P1)

桁端付近(A1)



補修内容

	断面修復工
上部工	ひびわれ補修工
	表面保護工
	水切り設置工
橋面工	断面修復工
	伸縮継手補修工
下部工	断面修復工
	ひびわれ補修工

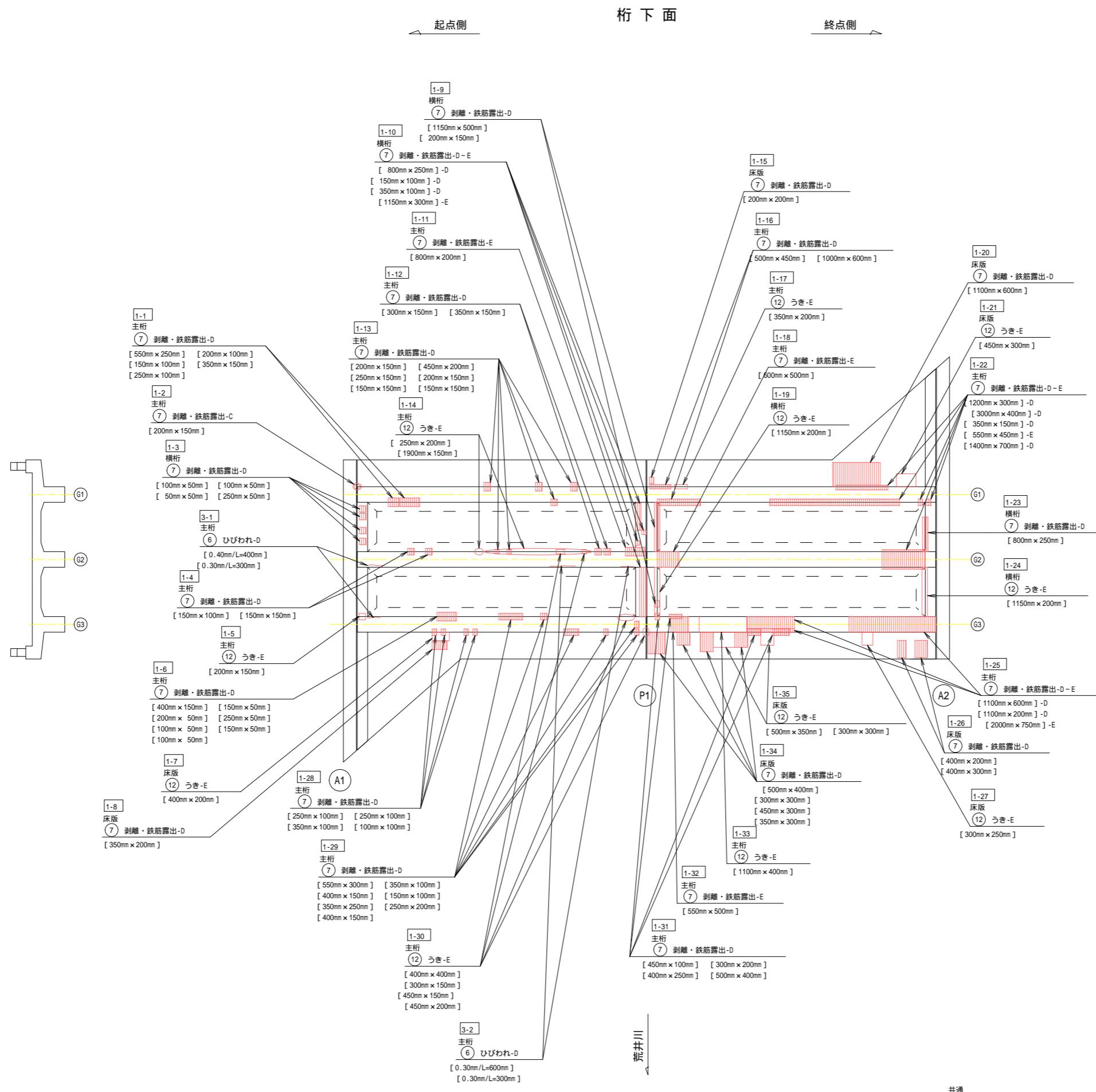
共通

注1:形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2:施工関連寸法は、現地計測により適宜調整すること。

工事名	令和7年度	
	森林整備林道事業林道寄栗線前橋橋梁修理工事	
図面名	補修一般図	
作成年月日		
縮尺	図示	図面番号 3
会社名		
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課	

断面修復工・ひびわれ補修工詳細図（その1）

S=1:50



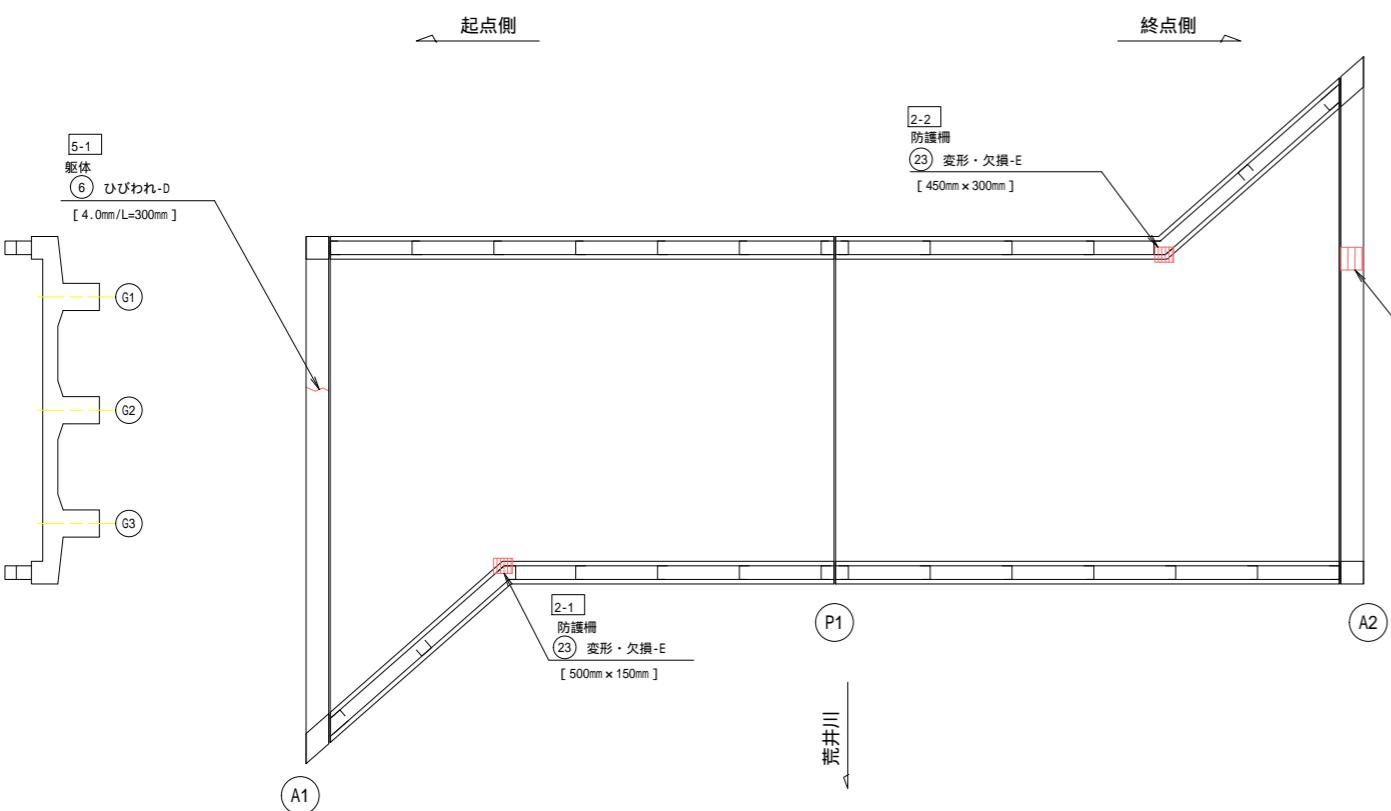
共通
注1：形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2：施工関連寸法は、現地計測により適宜調整すること。

工事名	令和7年度 森林整備林道事業林道寄栗線前橋橋梁修理工事		
図面名	断面修復工・ひびわれ補修工詳細図（その1）		
作成年月日			
縮尺	1:50	図面番号	4
会社名			
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課		

断面修復工・ひびわれ補修工詳細図(その2)

S=1:50

橋面



断面修復工(剥離・鉄筋露出、うき)

No.	形状 (mm)	面積 (m ²)	体積 (m ³)
上部工(桁下面、主桁、床版、横桁)			
1-1	L= 550x 250, t=50	0.138	0.007
	L= 150x 100, t=50	0.015	0.001
	L= 250x 100, t=50	0.025	0.001
	L= 200x 100, t=50	0.020	0.001
	L= 350x 150, t=50	0.053	0.003
1-2	L= 200x 150, t=50	0.030	0.002
	L= 100x 50, t=50	0.005	0.001
1-3	L= 50x 50, t=50	0.003	0.001
	L= 100x 50, t=50	0.005	0.001
	L= 250x 50, t=50	0.013	0.001
1-4	L= 150x 100, t=50	0.015	0.001
	L= 150x 150, t=50	0.023	0.001
1-5	L= 200x 150, t=50	0.030	0.002
	L= 400x 150, t=50	0.060	0.003
	L= 200x 50, t=50	0.010	0.001
	L= 100x 50, t=50	0.005	0.001
1-6	L= 100x 50, t=50	0.005	0.001
	L= 150x 50, t=50	0.008	0.001
	L= 250x 50, t=50	0.013	0.001
	L= 150x 50, t=50	0.008	0.001
1-7	L= 400x 200, t=50	0.080	0.004
1-8	L= 350x 200, t=50	0.070	0.004
1-9	L= 1150x 500, t=50	0.575	0.029
	L= 200x 150, t=50	0.030	0.002
	L= 800x 250, t=50	0.200	0.010
1-10	L= 150x 100, t=50	0.015	0.001
	L= 350x 100, t=50	0.035	0.002
	L= 1150x 300, t=50	0.345	0.017
1-11	L= 800x 200, t=50	0.160	0.008
1-12	L= 300x 150, t=50	0.045	0.002
	L= 350x 150, t=50	0.053	0.003
	L= 200x 150, t=50	0.030	0.002
	L= 250x 150, t=50	0.038	0.002
	L= 150x 150, t=50	0.023	0.001
1-13	L= 450x 200, t=50	0.090	0.005
	L= 200x 150, t=50	0.030	0.002
	L= 150x 150, t=50	0.023	0.001

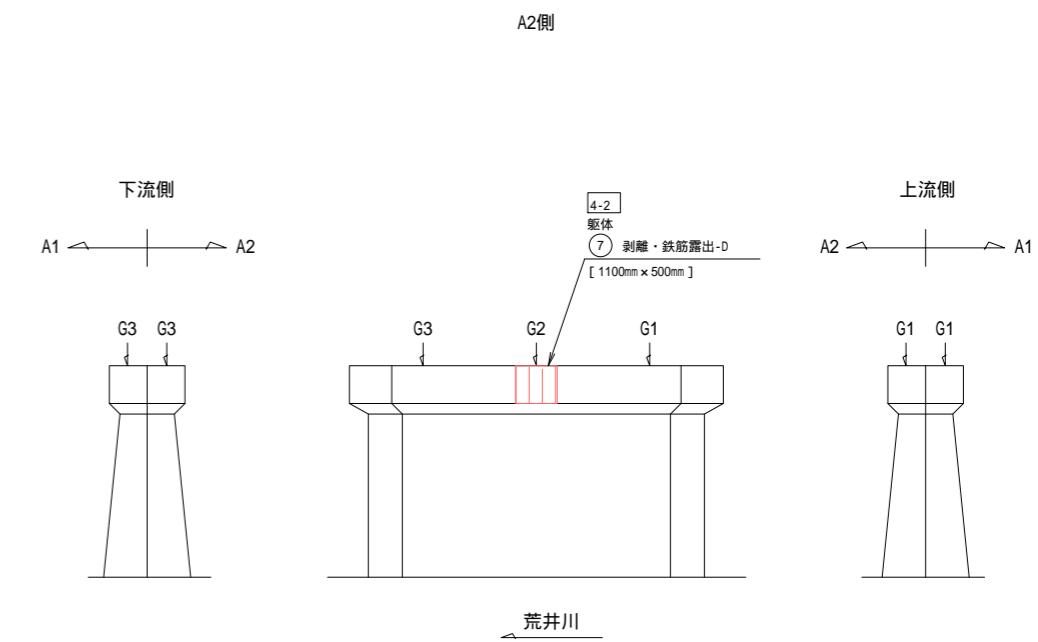
No.	形状 (mm)	面積 (m ²)	体積 (m ³)
上部工(桁下面、主桁、床版、横桁)			
1-14	L= 250x 200, t=50	0.050	0.003
	L= 1900x 150, t=50	0.285	0.014
1-15	L= 200x 200, t=50	0.040	0.002
1-16	L= 500x 450, t=50	0.225	0.011
	L= 1000x 600, t=50	0.600	0.030
1-17	L= 350x 200, t=50	0.070	0.004
1-18	L= 600x 500, t=50	0.300	0.015
1-19	L= 1150x 200, t=50	0.230	0.012
1-20	L= 1100x 600, t=50	0.660	0.033
1-21	L= 450x 300, t=50	0.135	0.007
	L= 1200x 300, t=50	0.360	0.018
	L= 3000x 400, t=50	1.200	0.060
1-22	L= 350x 150, t=50	0.053	0.003
	L= 550x 450, t=50	0.248	0.012
	L= 1400x 700, t=50	0.980	0.049
1-23	L= 800x 250, t=50	0.200	0.010
1-24	L= 1150x 200, t=50	0.230	0.012
1-25	L= 1100x 600, t=50	0.660	0.033
	L= 1100x 200, t=50	0.220	0.011
	L= 2000x 750, t=50	1.500	0.075
1-26	L= 400x 200, t=50	0.080	0.004
	L= 400x 300, t=50	0.120	0.006
1-27	L= 300x 250, t=50	0.075	0.004
	L= 250x 100, t=50	0.025	0.001
1-28	L= 350x 100, t=50	0.035	0.002
	L= 250x 100, t=50	0.025	0.001
	L= 100x 100, t=50	0.010	0.001
1-29	L= 550x 300, t=50	0.165	0.008
	L= 400x 150, t=50	0.060	0.003
	L= 350x 250, t=50	0.088	0.004
	L= 400x 150, t=50	0.060	0.003
1-30	L= 350x 100, t=50	0.035	0.002
	L= 150x 100, t=50	0.015	0.001
	L= 250x 200, t=50	0.050	0.003
	L= 300x 150, t=50	0.045	0.002
	L= 450x 150, t=50	0.068	0.003
	L= 450x 200, t=50	0.090	0.005

断面修復工(変形・欠損)

No.	形状 (mm)	面積 (m ²)	体積 (m ³)
上部工(橋面、防護柵)			
2-1	L= 500x 150, t=50	0.075	0.004
2-2	L= 450x 300, t=50	0.135	0.007
合計			0.210 m ² 0.011 m ³

No.	ひびわれ幅	数量 (m)
下部工(A1橋台、P1橋脚、軸体)		
5-1	w=4.0mm	L= 0.30
合計		

P1橋脚



断面修復工(剥離・鉄筋露出、うき)

No.	形狀 (mm)	面積 (m ²)	体積 (m ³)
下部工(A2橋台、P1橋脚、軸体)			
4-1	L= 100x 100, t=100	0.010	0.001
4-2	L= 1100x 500, t=100	0.550	0.055
合計			0.560 m ² 0.056 m ³

下部工の修復深さを100mmと想定する。

はつり後、鉄筋腐食の激しい箇所においては、鉄筋の裏側まで防食するか補強鉄筋を添えて修復する。

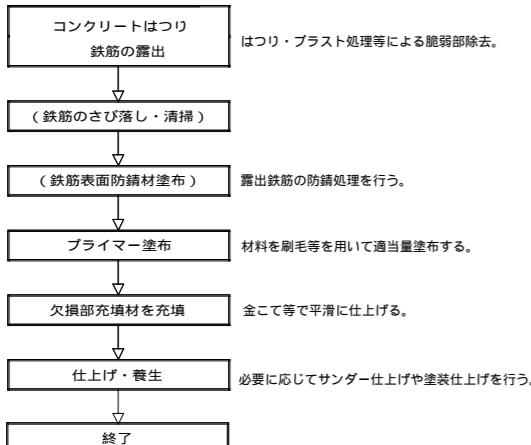
ひびわれ充てん工

No.	ひびわれ幅	数量 (m)
下部工(A1橋台、軸体)		
5-1	w=4.0mm	L= 0.30
合計		

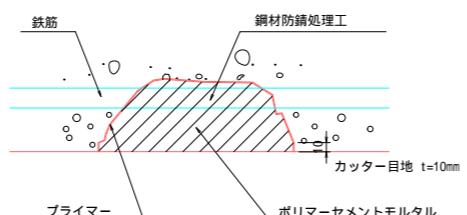
工事名	令和7年度	
森林整備林道事業林道寄栗線前橋橋梁修理工事		
図面名		
断面修復工・ひびわれ補修工詳細図(その2)		
作成年月日		
1:50		
縮尺	1:50	図面番号
会社名		

断面修復工・ひびわれ補修工詳細図（その3）

断面修復工

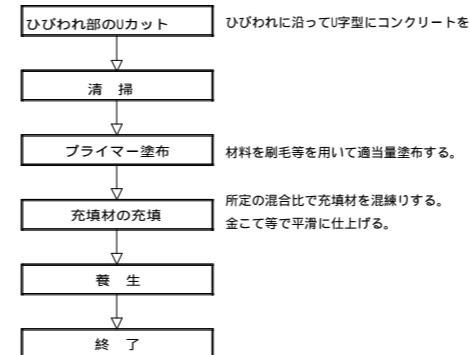


断面修復工詳細図

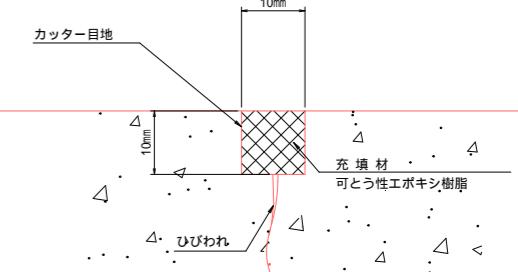


ひびわれ補修工（充てん工法）

（幅1.0mm以上のひびわれに適用）

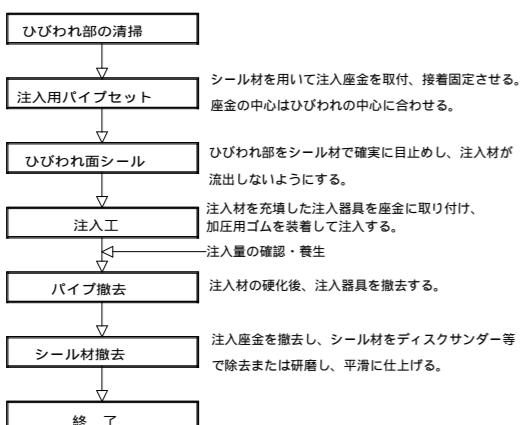


充てん工法詳細図

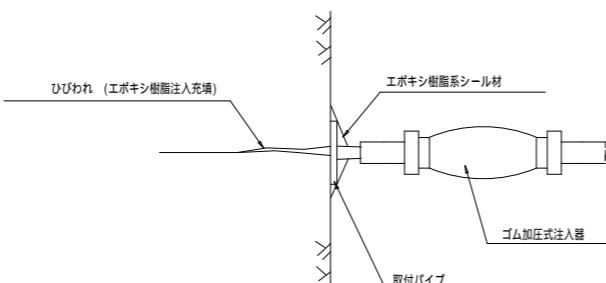


ひびわれ補修工（注入工法）

（幅1.0mm未満のひびわれに適用）



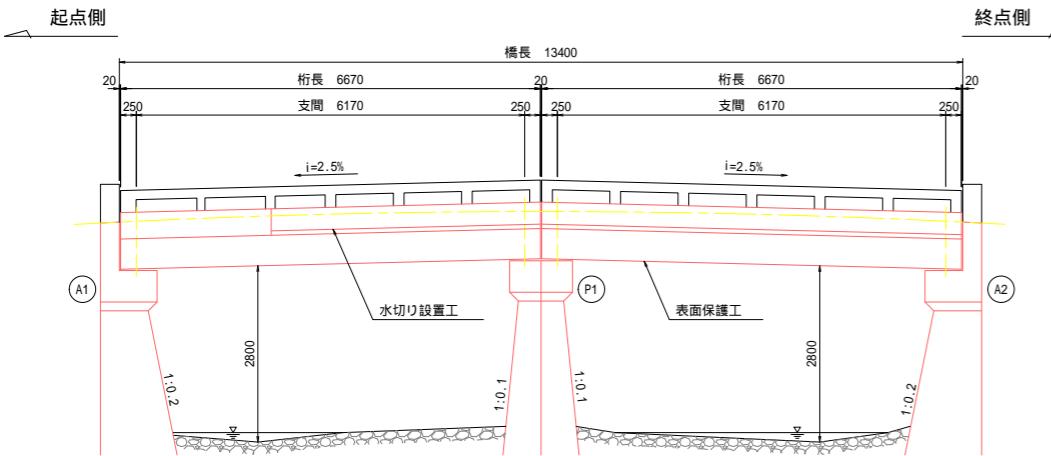
注入工法詳細図



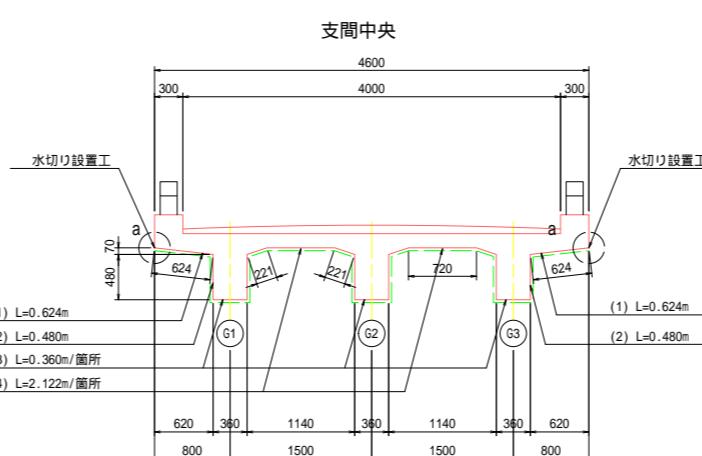
工事名	令和7年度	
森林整備林道事業林道寄栗線神前橋橋梁修理工事		
図面名	断面修復工・ひびわれ補修工詳細図（その3）	
作成年月日		
縮尺	-	図面番号 6
会社名		
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課	

表面保護工詳細図

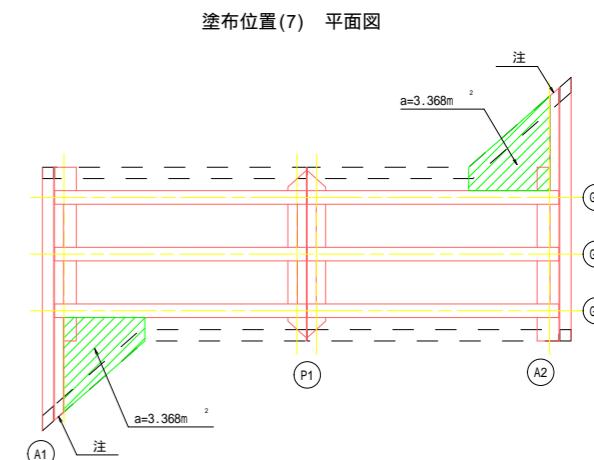
側面図 S=1:60



断面図 S=1:40

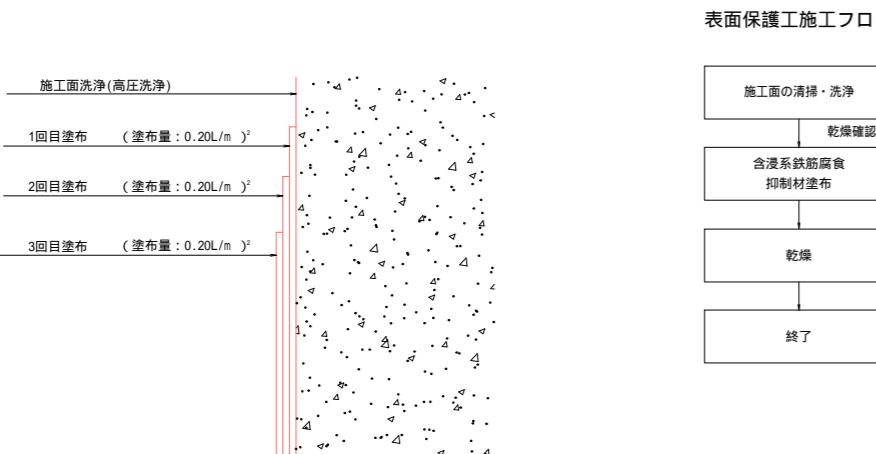


隅切り部塗布範囲



注) 隅切りを支持する端部枝折は、表面保護工の範囲に含まないものとする。

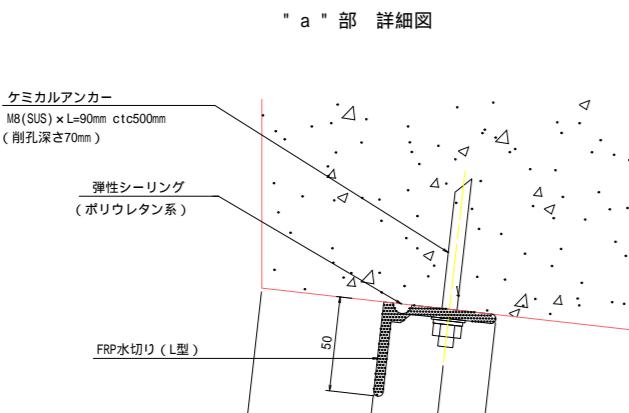
表面保護工(含浸系鉄筋腐食抑制工法)



注)

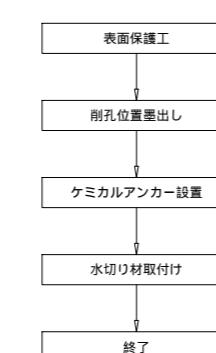
1. 施工面にススが付着している場合はサンドペーパー等を用いて除去し、その後に高圧洗浄を行うこと。
2. 上図は側面塗布の場合を示す。上面は0.15L/m²ずつ4回に分けて塗布すること。
3. 2回目以降の塗布は指触乾燥後を行うこと。
4. 単位面積当たりの塗布量を管理すること

水切り設置工 S=1:



張出店版の会員にFBA北切口を設置す

水切り設置施工フロー



表面保護工の施工範囲は、上図の破線及び斜線の範囲とする。
なお、塗布延長等は以下の通りとする。

塗布位置(1) : 2径間分の桁長 - 暦切りの橋脚方向長さ $L=10,947\text{m}$

塗布位置(2) : 2径間分の桁長 - 暎切り部の枝折厚さ $L=13,100\text{m}$

塗布位置(3) : 桁長 - 橋脚横掛かり長さ - 橋脚横掛かり長さ $L=5,600\text{m}$

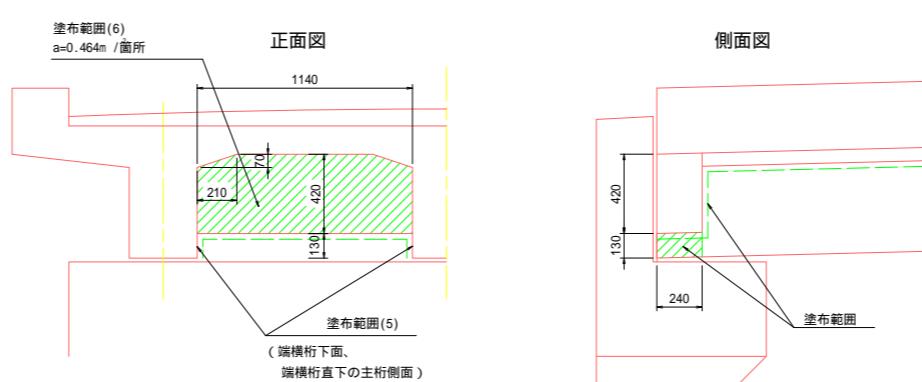
塗布位置(4) : 桁長 - 端横掛け2ヶ所の厚さ $L=6,190\text{m}$

塗布位置(5) : 端横掛けの厚さ $L=0,240\text{m}$

塗布位置(6) : 端横掛けの箇所数 $N=8\text{箇所}$

塗布位置(7) : 暈切りの箇所数 $N=2\text{箇所}$

端橫桿塗布範圍



水切り設置延長		
設置箇所	部 位	長さ(m)
床版下面	上流側	13.811
	下流側	13.811
設置延長(m)		27.622

水切り設置工数量表

水切り装置工数表					(単価)
名 称	仕 様	単 位	合 計	備 考	
水切り材	FRP製 L型(ボルト・ナット付)	m	27.62	N=19本(1.5m/本)	
樹脂カバセル	M8用 L=70	本	56		
強化シリーリング	ボリウレタン系	1	1.08	0.039L/m	

共通
注1：形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2：施工関連諸寸法は、現地計測により適宜調整すること。

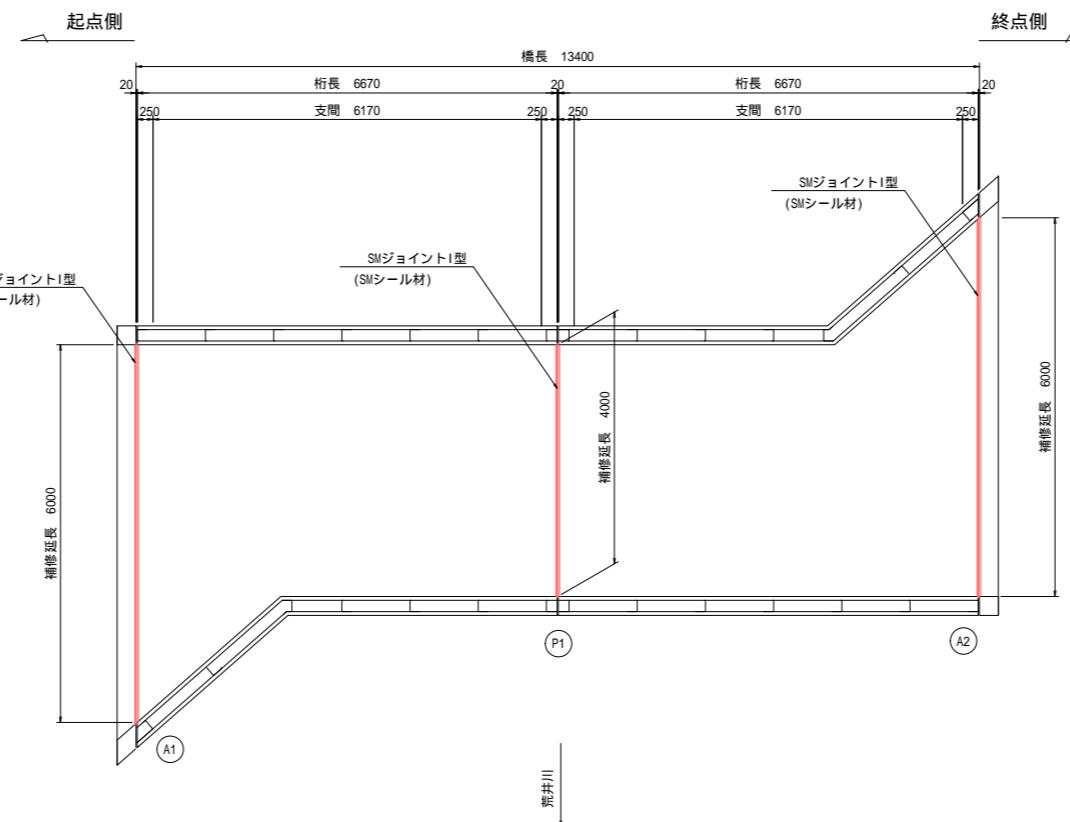
水切り設置工数量表				(1橋当り)
名 称	仕 様	単 位	合 計	備 考
水切り材	FRP製 L型(ボルト・ナット付)	m	27.62	N=19本(1.5m/本)
樹脂カプセル	M8用 L=70	本	56	
離陸シーリング	ボルターレン系	1	1.08	0.039L/m

工事名	令和7年度 森林整備林道事業林道寄栗神前橋樁梁補修工事		
図面名	表面保護工詳細図		
作成年月日			
縮尺	図示	図面番号	7
会社名			
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課		

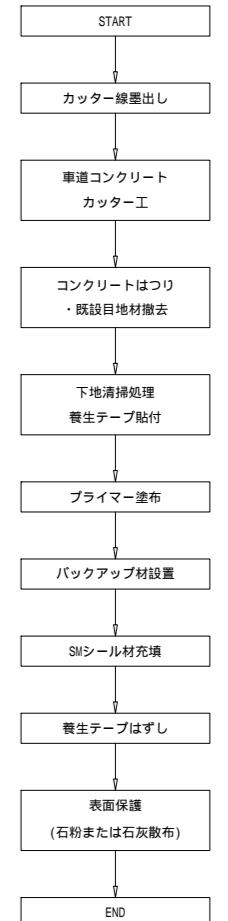
伸縮継手補修工詳細図

平面図

S=1:60

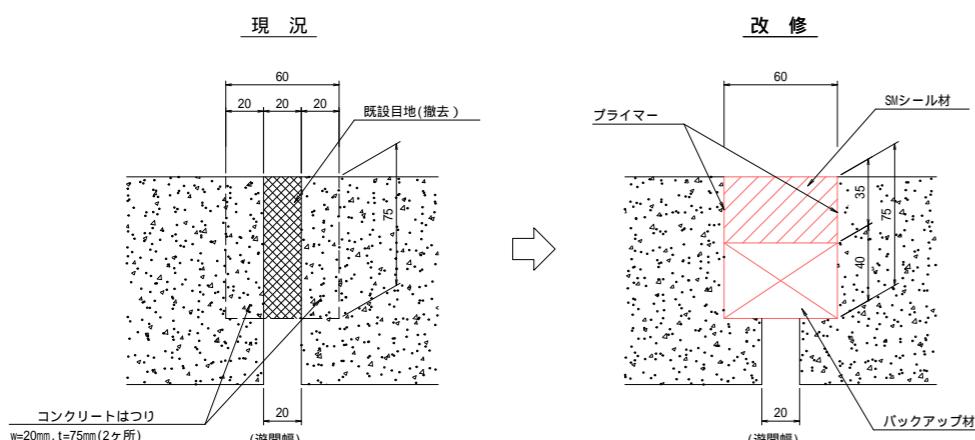


施工フロー



車道部補修要領図

S=1:2



既設目地の両側にカッターを入れ、コンクリートをはつり取りながら、路面から深さ75mmまで既設目地材を撤去する。

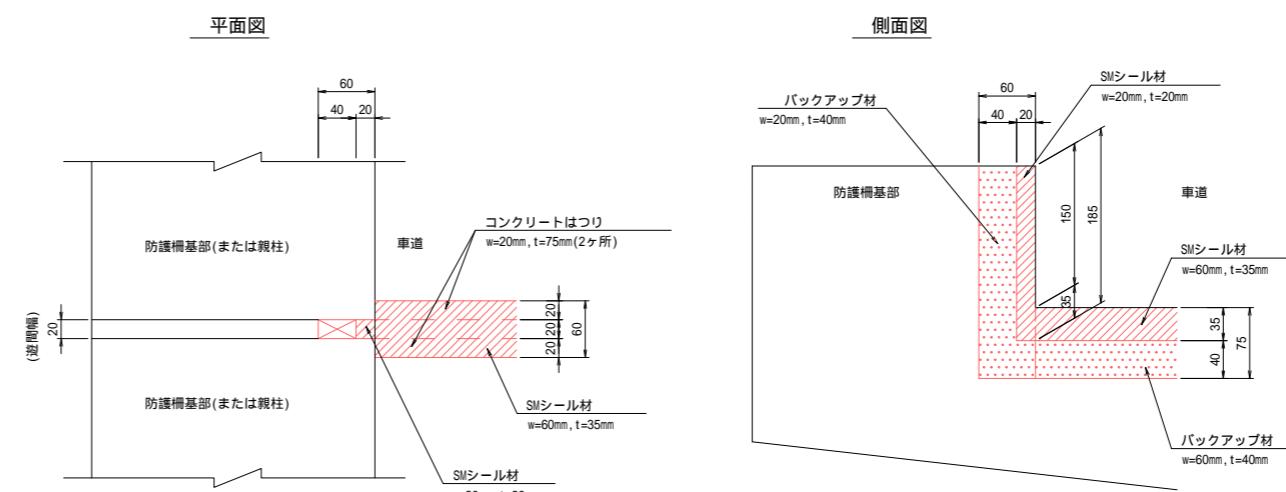
既設目地材の撤去完了後、バックアップ材を隙間なく詰め込み、バックアップ材より上のコンクリート面へプライマーを塗布してSMシール材を充填する。

伸縮継手補修工数量表

名 称	仕 様	単 位	数 量	備 考
カッター工	コンクリート舗装 深さ75mm	m	32.0	
コンクリートはつり		m ³	0.05	車道部のみ
SMジョイント I型	SMシール材 (ポリブタジエン樹脂)	L	34.04	
プライマー	専用プライマー	mL	174.66	
バックアップ材		L	39.58	

路側部補修要領図

S=1:4



路側の立ち上がり部（防護柵基部土壌、または防護柵基部と親柱の間）は、上図に示すように路面から150mmの高さまでシール材を充填する。
なお、立ち上がり部におけるシール材の充填幅は現況遊間幅（想定20mm）のままで、充填厚さは20mmとする。
(バックアップ材配置以降の施工手順は車道部に準ずる)

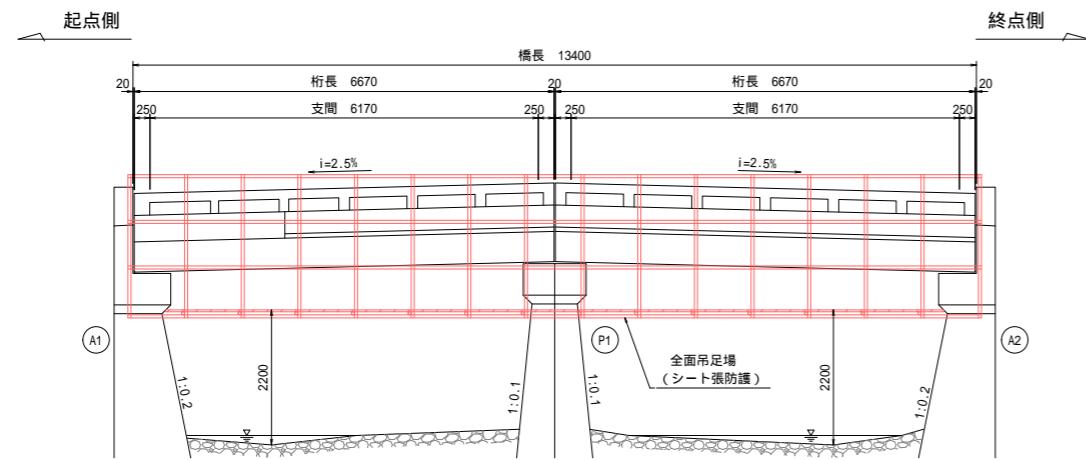
共通

注1：形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2：施工間連諸寸法は、現地計測により適宜調整すること。

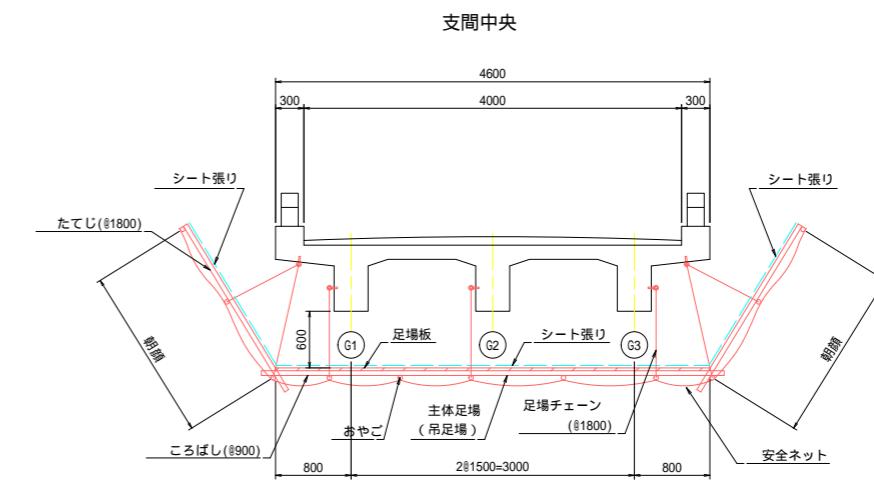
工事名	令和7年度 森林整備林道事業林道寄栗線前橋橋梁修理工事		
図面名	伸縮継手補修工詳細図		
作成年月日			
縮 尺	図 示	図面番号	8
会社名			
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課		

仮設参考図

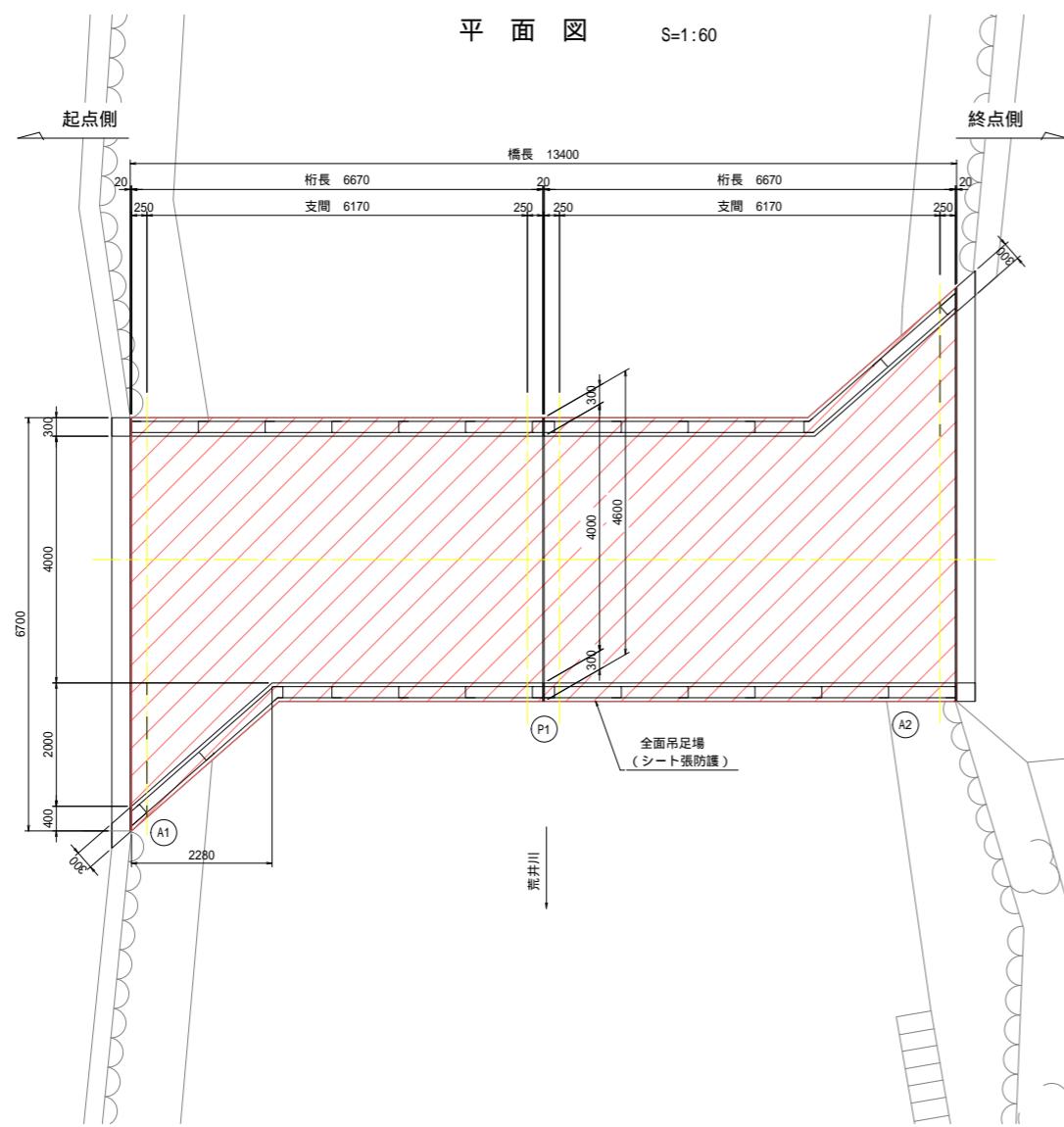
側面図 S=1:60



断面図 S=1:40

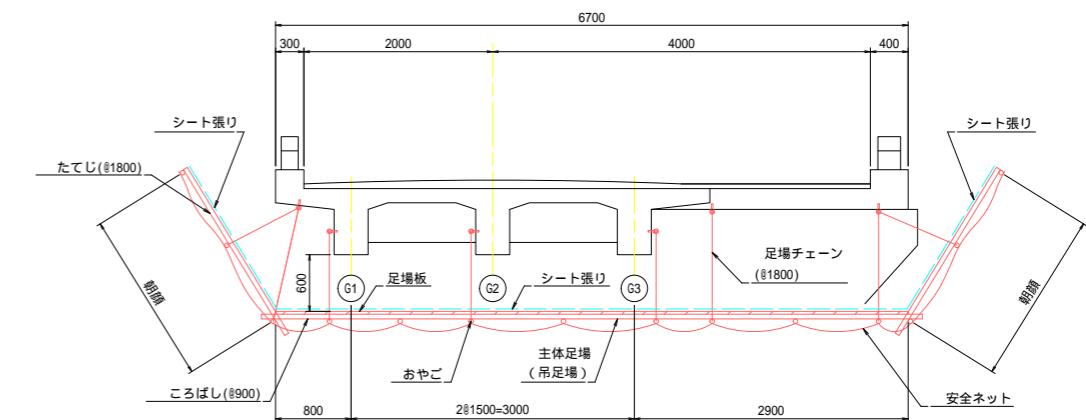


平面図 S=1:60

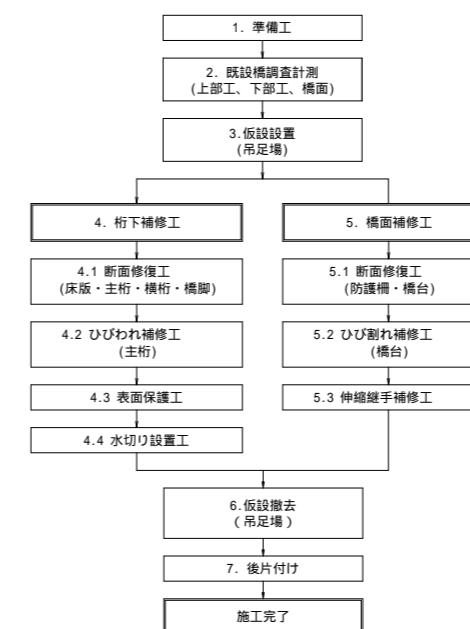


桁端付近(P1)

桁端付近(A1)



施工フロー



足場別工種一覧

種別	工種
床版	断面修復工・表面保護工・水切り設置工
主桁	断面修復工・ひび割れ補修工・表面保護工
横桁	断面修復工・表面保護工
橋脚	断面修復工

吊足場数量表

名 称	単 位	数 量
吊足場(朝顔・シート張防護付)	m ²	66.8

共通
注1: 形状寸法は、現地調査結果を基にモデル化したものである。
注2: 施工間連寸法は、現地計測により適宜調整すること。

工事名	令和7年度	
森林整備林道事業林道寄栗線前橋橋梁修理工事		
図面名	仮設参考図	
作成年月日		
縮尺	図示	図面番号 9
会社名		
事務所名	鹿沼市役所 経済部林政課	